

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

池田地域コミュニティ推進協議会		予算額(千円)	概 要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所 管 課 目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営に必要な庶務経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	197	電気使用料 9 修繕料 130 設備保守点検委託料 58	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	・雷によりカメラ2台損傷。	・カメラ本体取替。	・正常な状態が保たれている。		各部会毎で評価(客観的な指標も用いた)協議会役員会で最終照定してまとめを行った。	継続的経費について理解のし、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費	
地域掲示板設置事業	261	修繕料 261	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地図図等と共に使用出来るようにする。	老朽化し倒れる恐れがあった。(建石町・上池田1丁目・町内会域)	撤去後新設。	安全が確保された。	状況を早期に掘み修理で済むようにする。		引き続き拠点やちいさな絵本館の運営方法やあり方について、協議会内で議論いただき、方向性を示していくことが必要と考える。なお市の事情により、未実施であったり、一部内容変更となる事業が生じ、ご迷惑をおかけしたことについて、お詫びいたします。	地域の自治会とも連携し、広報に寄与している。適切な管理をお願いしている。	地域分権・協働課 自治振興費
桜通り「石の彫刻」周辺環境整備事業	1,607	修繕料 1,607	桜通り「石の彫刻」の周辺環境について、観光資源の一環を担うよう、銘板の新設や樹木の撤去整地などの整備を行う。							—	人権・文化国際課 文化振興費
駅前でてるてる広場トイレ前補脚補修事業	411	修繕料 411	池田のまち みんなまとめてテーマパーク構想を標榜する池田市の玄関口にふさわしい環境を整備するため、駅前でのてるてる広場トイレ前の補脚の塗装塗装及び防水工事を行う。	歩道橋からの雨漏りで汚損、見苦しい状態。	補脚4体を塗り替える。	玄関口にふさわしい、すっきりとした状態になった。	歩道橋からの雨漏り防止の徹底補修を必要とする。			塗装の仕上がりは良好であり、池田駅前環境整備向上につながったと評価する。	道路・河川課 道路維持費
道路安全対策事業	822	修繕料 822	交通事故防止対策を強化し歩行者の安全を確保するため、横断歩道のカラー化及び「徐行」「止まれ」の標示を行う。	1.幹線道路の渋滞により生活道路からの流出がスムーズにできない。危険を感じる。 2.信号回避等で車の抜け道状態になっており「ヒヤリ・ハット」が多発。	1.交差点のカラー塗装 2.徐行標示等の増設及び更新	標示が鮮明になりそれなりの効果は期待できる。	定期的な補修・更新が必要。		交通安全性の向上に一定の効果があったと評価する。	道路・河川課 道路維持費	
市民レクリエーション大会事業	400	行事報償金 400	校区実行委員会が主となり毎年、小学校運動場を会場としてコミュニケーションの拡充とスポーツ意識の向上に伴う健康づくりを目指す。	・継続して実施している。	・今年度の参加者は初めて1000人を切った。(他行事とかちあったのでは)	・雨上がりで水溜まりができ実施が危ぶまれたが住民の協力により実施できた。地域の行事として根付いたのではないが。	地域によってこどもの数が極端に差があるので対抗競技のルールの抜本的な見直しを行ったが、まだ改善の余地があるのではないが。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	505	補助金 505	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	継続事業(全戸配布)		・提案事業をグラフ・写真等多用しわかりやすい紹介に努めている ・同様に地域の情報も提供している ・年間カレンダー(スケジュールの記入ができる仕様)の発行で日々利用していただく事によって認知度を高めることを期待したい	創刊号からファイリングしている、又今回のカレンダーは記入スペースがあるので重宝しているとお声をいただく方もあるが…全体としては…。	提供される、提供する情報量が減少してきている。購読率が掴みきれないので来年度は発行回数を2回に減らし内容の検討を行う。	カレンダーは好評の声もあるのだが、コミュニティ誌としては検討が必要。発行回数を減少させて等価でいてほしい。	秘書・広報課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業	863	補助金 863	自主防災組織の体制強化を図るため、防災倉庫に防災備品を整備する。	自主防災会が結成されてなかった2町会・自治会の1つであった。	西本町自主防災会が設立された。(地域14番目)	既存防災会(槻木町)主催の定期防災会に多数の住民が参加し地域力を高めている。	継続し独自での展開も心がける。			危機管理課 自治振興費	
自主防災会合同防災訓練・リーダー養成支援事業	300	補助金 300	池小校区・自主防災組織連絡会の主導により14自主防災会が一同に会する防災訓練を実施し、リーダーの育成を支援し、地域の防災意識の高揚を図ると共に地域の人たちとの連携を図る。	13自主防災会が主導し、地域住民参加の避難所運営訓練を実施していたがリーダーが責務を全う出来たとはいえない状況であった。	14自主防災会連絡会が主催し、避難所運営に関しリーダー研修を実施。	住民(仮想避難者)不参加の中での訓練で戸惑いがあったがリーダーのやるべき事がおまかに把握できた。(反省検討会での発言から)	継続実施しレベルアップ心がける。		自主防災組織が合同で訓練を行い、地域の防災活動に大きく貢献したことを評価する。災害発生時の連携等を期待する。	危機管理課 自治振興費	
池田地域コミュニティ推進協議会事務所運営推進事業	1,003	補助金 1,003	協議会活動を円滑に行うため、事務作業の支援を行うほか、地域住民への啓発及び情報発信を行う。	・市立池田会館内に設置(平成23年から)・専属女性事務員1名、男性会員2名で運営。	・継続運営中	・長年の関係書類の保管がほぼ完璧である。 ・地域住民からの問い合わせ(掲示板への掲載許可等)が多くなってきている。	令和2年8月末を持って退去が決定。ランニングコストの低い物件の確保。		事務作業が円滑に行なわれている。新しい拠点の整備に向け、みなさんと議論いただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費	
池田子ども花まつり支援事業	20	補助金 20	子どもの健全育成を助け、生きる力を育み、家族と体験を共有することで絆を生み、また池田の歴史を受け継ぐ文化遺産に触れることにより、子どもの『郷土池田』に対する関心を高める活動を支援する。	実績なし	実行委員会からの要請により実施				事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費	
「ちいさな絵本館」推進事業	1,480	補助金 1,480	絵本の読み聞かせを通して地域住民の世代間交流を推進する。一層の内容の充実(蔵書・イベント・情報発信等)を図り、こどもたちの豊かな成長を応援する。	創立9年目を迎えた継続事業。年間スケジュールに基づき子育て支援が継続されている。	来館者も3,500人/年前後で固定化してきた。 蔵書数3,000冊を越えた。	幼児連れの利用に特化されつつある。(リピーターが多い)貸し出しによる効果。(家計・時間、絵本に接する機会増など)子育て世代のコミュニケーションの場になっている。	近場に転載された市立図書館との棲み分け。		池田小学校区の子育て支援の場として根付いたことと評価。市立図書館と連携した取組も期待したい。	子育て支援課 自治振興費	
継続ファンタジー絵本製作事業	633	補助金 633	池田の未来を担う子どもたちに「郷土池田を愛する心」を育ててもらい、子どもたちとふれあひ、コミュニケーションをとるために、池田に伝わる織姫伝承をもとにファンタジーをつくり、絵本を製作する。	絵本化されていなかった。	・上製本100冊を製作し、市内の保育所や幼稚園、小学校等に配布。	絵本を通じ池田に親しみ、愛する心を養う機会になればと祈る。			本市に伝承される文化を次代に伝える土壌を育てると共に、絵本を通じて子どもとふれあう機会の一助になったと考えられている。	子育て支援課 自治振興費	
交通安全対策事業	201	補助金 201	多発傾向にある自転車事故の防止を図るため、また渋滞多発地点の安全向上のため、交通安全看板を設置する。	新規	自転車安全運転啓蒙看板(イラスト主体900x1500)の制作と掲示。 ・市役所駐輪場・公民館駐輪場 ・さくら幼稚園駐輪場・ちいさな絵本館側壁	マナー向上で事故の減少に期待			駐輪場等に大きな看板を設置することで、自転車運転者に対する注意喚起となり交通安全につながった。	まちづくり・交通課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

いけだ学園畑プロジェクト（MTP）等支援事業	560	補助金 560	池田中学校に新たに畑地を設け、学生が主体となりながら運営を行う。また「平和のつどい」に参加し、児童との交流を図る。	MTPフェスティバル・平和のつどい共に継続実施している。	地域住民指導のもと中学生が主体となり、今年度はさつまいもの栽培に挑戦したが、葉は良く茂り豊作を期待したが全くの不作であった。幼稚園の招待も水泡に帰した。	・自然相手の栽培、収穫のむかしさを身をもって経験できた。	参加者の広がり継続。		生徒が主体的に活動できるよう作物の栽培に取組んだ。成功体験ではなく、自然相手の失敗体験を経ることで、より生徒の学びにつながった。この学びを次にどうつなげていくか検討する必要がある。	教育政策課 自治振興費
計	9,363	事業提案限度額	9,468千円	次年度繰越金額	105千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

秦野地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への普及及び周知に係る事務費。								地域分種・協働課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	271	電気使用料 39 設備保守点検委託料 232	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	交差点での事故・事件に関する情報収集の手段がなかった。	交差点での情報収集ができるようになった。	防犯カメラがあることにより、事件の抑止効果が期待できる。また、事故があった時に客観的な情報源になっている。	監視地域のカバー率がUPしたが、まだカバーできていない地域が3割ほどある。今後の課題として池田市警察と協議を詰めていきたい。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	各種提案事業について、実施後の管理も理解の上、適切な維持管理を望む。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課自治振興費
地域防災体制強化等事業	1,100	修繕料 1,100	南畑公園に防災備蓄倉庫を設置し、自主防災活動の拠点づくりを目指す。	南畑公園の倉庫老朽化	防災倉庫として建て替え	南畑公園を秦野地域の防災拠点とし、自主防災活動組織の立ち上げて防災倉庫としての役割	地域住民の協力で防災倉庫としての管理体制構築		秦野小学校区では既に南畑公園自主防災会が立ち上がり、地域の防災活動に大きく貢献したことを評価する。	秦野小学校区では既に南畑公園自主防災会が立ち上がり、地域の防災活動に大きく貢献したことを評価する。	危機管理課災害対策費
公共施設案内板設置事業①	340	修繕料 340	地域内の公共施設(会館・公園)の案内表示板を設置し、施設への誘導を円滑に行なう。	正式な案内板は無し	渋谷公園・南畑公園 渋谷会館・南畑会館への案内板5ヶ所設置	両会館・公園への行き方が分かり易くなりました	歩道緑地帯に設置のため安全と維持管理				地域分種・協働課自治振興費
公共施設案内板設置事業②	170	修繕料 170	地域内の公共施設(会館・公園)の案内表示板を設置し、施設への誘導を円滑に行なう。	正式な案内板は無し	渋谷公園・南畑公園 渋谷会館・南畑会館への案内板5ヶ所設置	両会館・公園への行き方が分かり易くなりました	歩道緑地帯に設置のため安全と維持管理				公園みどり課公園費
公園遊具整備事業	1,210	修繕料 1,210	渋谷公園の利便性の向上を図るため、ブランコを新たに設置する。	渋谷公園のブランコが破損により使用不能	渋谷公園内に新しくブランコを設置(ブランコ本体、安全柵)	公園で遊ぶ子供たちが楽しそうにブランコを使用している	地域の自治会等と安全対策と遊具破損のいたずら防止を協力しながら見守る			遊具を設置した事により、子どもの公園利用が増える事が期待できる。	公園みどり課公園費
AED管理事業	51	消耗品費 51	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	地域内会館に設置したAEDの消耗品交換の必要性がある	AEDバッテリーとパッドの交換 地域住民へのAED講習会実施	AEDバッテリー・パッド交換及び地域住民のAED講習会参加により安全に使用できる	今後も地域住民のAED講習会参加の啓発活動を続ける			共同利用施設にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後とも引き続きAED設置、管理要領に基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課保健衛生総務費
秦野小学校スポーツ器具等支援事業	609	校用器具費 609	秦野小学校の体育館のバレーボール用具及びソフトボール等の支援をし、地域内の人々と子どもたちが安全で使いやすい備品を使用できるようにする。	バレーボール支柱が重く運搬が難しい。ネットも老朽化している。体育館にてボール使用時出入口からボールが飛び出す	カーボン製の軽量バレーボール支柱とネット、ボール飛び出し防止用ネットを購入した。	軽い支柱を購入した事により運搬が楽になり危険を回避することができるようになった。ネットを購入しボールの飛び出し防止をはかる。	教育委員会と協議し必要な備品整備に協力し、子供達の健全な育成に貢献していきたい。教育委員会とのコミュニケーションをより強化していきたい。		老朽化した備品を再整備することにより安全に体育活動を行うことが可能となった。	総務・学務課学校管理費	
市民レクリエーション大会事業	280	行事報償金 280	地域のスポーツ振興会と子ども会等の地域団体が開催する事業を支援する。	毎年度地域の協力も受け、レクリエーション大会の準備・補助を行っている。	レクリエーション大会のプログラムパンフレットの作成・配布及び開催を補助を行いました。	地域・子ども会の協力により、備品の貸し出しも含めレクリエーション大会が開催できた。	自治会、子ども会入会者の減少は止まらない。今後は地域住民の参加率向上を図り、子ども会等の発展につなげていきたい。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	420	補助金 420	地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	「秦野まちづくりだより」は年間行事等説明文が多い。写真より多くて見やすいものにし、行事にはより広くわかりやすい記事内容に努めた。	年3回発行することが定着してきたこともあり、地域での認知度は高まり協力者及び参加者が増えている。	わかりやすい紙面づくりは好評で関心や認知度も上昇している。地域行事の内容も写真も使い、より詳しく伝えることで地域内の活性化につながっている。	今後も活動のPRを進めて地域住民とのコミュニケーションを向上させていきたい。協議会の会員の募集も含め、啓もう活動及び行事参加者増加に努めたい。		写真が多く、デザインも統一感があり見やすい。今後も地域コミュニティ誌だからこその記事を読めるような記事を投稿していきたい。	秘書・広報課自治振興費	
コミュニティサロン兼事務所整備事業	1,250	補助金 1,250	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員の相互の事務の効率化を図るため開設したコミュニティサロン兼事務所について、利便性の向上のための整備を行う。	喫茶店仕様の部屋をそのまま借り受けの為厨房等不要のスペース有。トイレが和式で使いにくい。	事務所兼サロンとして使用しやすくなった。トイレも洋式に変更して、年配者及び子どもが利用しやすくなった。	事務所の機能が有り、会議・打ち合わせがスムーズに出来る。地域の人も来所しやすくなった。	地域の中心拠点施設として事務所・サロン(広場)として充実、円滑に維持運営をする。		拠点施設としての機能が向上したとの認識。利用者の増加に期待するもの。	地域分種・協働課自治振興費	
コミュニティサロン兼事務所管理運営事業	1,290	補助金 1,290	地域内のコミュニケーションを密にすると共にコミュニティ会員の相互の事務の効率化を図るため開設したコミュニティサロン兼事務所について、管理運営を行う。	開設したコミュニティサロン兼事務所は土・日曜日のみオープンで、地域とのコミュニケーションがとりにくい。	平日オープンし事務所兼サロンとして使用しやすくなった。地域とのコミュニケーションがとりやすくなった。	サロン(広場)機能が有り、会員の会議・打ち合わせ以外に地域の人も来所しやすくなった。	地域の中心拠点施設として事務所・サロン(広場)として充実、円滑に維持運営をする。		開設時間も増え、拠点としての効果も向上したが、会員の負担も増えるよう維持できるように体制強化に期待する。	地域分種・協働課自治振興費	
地域内会館備品整備事業(南畑会館)	30	補助金 30	地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	会館の物品を置くスペースが少なく、備品の管理が不十分であった。	棚を設置した。	棚を設置したことにより、備品の整理が改善され管理がスムーズにできるようになった。	公共施設の備品の運営・維持・管理をより一層充実していきたい。		会館の利便性が向上したものの、適切な管理をお願いするもの。	地域分種・協働課自治振興費	
地域掲示板設置事業	46	補助金 46	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるための掲示板を、地域団体と共に使用するとともに維持・管理・運営を行う。	設置された掲示板の清掃が不十分ため汚い。掲示用磁石の紛失。	掲示板の点検・清掃、磁石の補充。	清掃され、マグネットでの掲示の為、作業がスムーズに行えるようになった。	掲示板を定期的にチェックし、維持管理に尽力していきたい。		既存掲示板の適切な維持管理を実施し、地域の広報活動に寄与。	地域分種・協働課自治振興費	
地域ギャラリー維持管理事業	80	補助金 80	コミュニティ事業の情報発信、地域住民の作品掲載、地域行事等の広報を行うためギャラリー掲示板の維持管理を行う。	1か月ごとに作品入れ替えをしている。地域の催しの写真なども使い紹介した。幼稚園の作品展示も継続的になっている。	会員の負担も軽減されスムーズに運営が行われている。地域事業の発信・住民の作品展示・地域イベントの写真などを多く展示し、広報活動に努めた。幼稚園、子ども会などの掲示も好評である。	毎年、新しい作品が増えている。認知度がさらにアップしている。通行人の方にもよく見ていただいている。	作品集めはまだ必要と感じている。今後も根気強く広報活動を続けていきたい。	地域の広報に寄与するともにコミュニティの強化にも寄与しているものと評価。	地域分種・協働課自治振興費		
校区盆踊り大会事業	200	補助金 200	スポーツ振興会と子ども会等の共同開催である盆踊り大会を支援する。コミュニティ意識の高揚を図る。	スポーツ振興会と子ども会等で主催している。盆踊り大会の開催ははるかに積極的に支援をする。小学校の耐震工事が終わった広いグラウンドで開催できた。	備品などで共同開催を支援しており、参加人数も増加している。盆踊りの習得を促進するため小学校の体育館で2回練習会を行った。広いグラウンドで沢山の地域住民が盆踊りを行うことができた。	盆踊りを継続的に実施することにより、地域の親睦が図れ地域の風物詩として定着している。練習会は好評で子供達の盆踊り参加率向上に貢献している。	盆踊り大会はまだ必要と感じている。今後も根気強く広報活動を続けていきたい。	事業提案案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

地域イベント活性化推進事業	950	補助金	950	地域の交流と地域活性化を図るため、フリーマーケット及び地域活動を推進・支援していく。	秦野小学校の耐震工を終了するため、あおぞらdeはたのフェスタは秦野小学校での開催の予定。 テーブル等重く搬入に適さない物品あり。	秦野小学校での開催で、小学校体育館・あおぞら幼稚園の園庭と遊戯室を利用した。軽量化した備品の拡充にも努めた。	あおぞらdeはたのフェスタを秦野小学校に戻って行ったため周辺住民への認知度がより高まった。備品整備により、地域行事の円滑な活動に貢献できた。	今後はあおぞらdeはたのフェスタを秦野小学校で行う。地域住民の参加率の向上に向けてさらに努力していきたい。軽量備品の維持管理の精度を向上させていきたい。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
秦野地域花いっぱい運動支援事業	80	補助金	80	地域と学校が一緒に花を育て緑化を進め笑顔あふれる地域にしていく。	今回で6回目の事業。毎年渋谷中学校・地域の各団体と連携して行っている。	保護者・保護者の日・教職員・地域の方々が参加し、およそ20回の活動を行い、菊づくりを中心に草花の栽培に対して支援した。苗・土・肥料・鉢・プランターなどの用具も揃えることができた。	咲いた菊を中学校の文化祭で展示することにより来訪者を和ませた。あおぞらdeはたのフェスタでも展示・販売を行い、認知度はさらに高まっている。また各会館・施設にも分けて喜ばれた。	今後も継続的に支援していきたい。	豊島北2丁目公園の花壇の手入れ、管理を園芸高校と協働で実施しており、地域の憩いの場となっている。	公園みどり課 自治振興費
自然学習講習会・昆虫育成事業	100	補助金	100	地域特有の自然と触れあい、自然を学び、昆虫育成により親子のふれあいの場を提供する。	カブト虫養育場での幼虫飼育、腐葉土の入替用意。	雨のため渋谷会館で育成教育を行いました。会員が掘り出した幼虫を載せる体験をし、幼虫を手渡した。養育場の腐葉土の入替を行った。	初めての幼虫を手に載せた子供もおり貴重な体験になったと思う。幼虫を自宅で飼育観察し日記を作成することにより自然の営みを学習できたと思う。養育場の土の入替をすることにより、土壌の清潔さが保たれる。	かぶと虫の養育を通じて今後も子供達に自然の大切さを訴えていきたい。	バスケットコートを含めた公園の一部管理を実施することで、青少年の健康増進につながっている。	公園みどり課 自治振興費
交通安全対策事業	160	補助金	160	現在設置されている飛び出し坊や看板を改修し、地域内交差点を安全に歩行できるようにする。	交通看板（飛び出し坊や）の破損が著しい。	新しく設置したり、修理して設置。設置場所の変更もあり。	危険箇所に設置で安全性がたかまる。設置場所の再考で危険箇所の減少。	設置場所等の再確認、破損の速やかな対策。	適切な場所へ飛び出し坊やを設置することにより、危険箇所の注意喚起となり交通安全につながった。	まちづくり・交通課 自治振興費
秦野地域うたいばい運動支援事業	300	補助金	300	秦野小学校区の子どもたちの聖歌隊が町の中を練り歩き、秦野小学校でコンサートを実施、歌うことにより学年を越えて友情の絆を深め、地域内の交流を深める。	12月のコンサートは3回開催済み。キャロリングの道順は改善されて好評である。コンサート会場秦野小学校体育館の飾り付けと暖房が課題である。	公募で集まった老若男女の団員が地域をキャロリングして小学校の体育館でミニコンサートを行い、地域交流を図った。前年度より体育館の舞台を横に使ったことは好評であった。	事業を継続実施することにより、うたいばい運動が定着しつつある。	団員の拡充と広報活動の強化。会場の暖房。	公募で集まったさまざまな世代の団員が「うた」を通して交流を深めることができた。回数を重ねるにもコンサートが認知されており、有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
キッズランド支援事業	30	補助金	30	秦野小学校で開設された「秦っ子キッズランド」で使用する用品及び教材を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。	キッズランドでの文具等がまだ足りない。古いものの入れ替えができない。	文具や教材、道具等が増えた。	遊びの幅が広がり、楽しんで過ごしている。	まだ文具等が足りない古くなっているので、継続的に支援する必要がある。	文具、教材等を補充することで、キッズランドでの遊びの幅が広がり、充実した活動につながっている。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
地域内子ども会等活動支援事業	600	補助金	600	校区内で子ども会等の育成を行い、協議会と子ども会が協働して取組を行う。	前年度長野県より雪30トン搬入して秦野小学校グラウンドにて雪あそび。箕面市教学の森で飯ごう炊飯。両イベントは好評である。	予定日が雨の為実施日をずらして雪の搬入。20トン。本年度も教学の森で飯ごう炊飯。火おこしの訓練。	雪あそびは子ども会以外も対象とし、普段雪を見ることのない子供たちが自然を体感することができた。野外炊事をしたことにより火おこし等自然に対応する力が少しは蓄えられたと思う。	子ども会への加入者増加を協力して行い、支援を続けていきたい。	日常的に経験できないことを行事として実施することで、校区内の子ども会との交流が深まり、子どもたちにとって充実した活動となった。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
計	9,667			事業提案限度額 9,698千円	次年度繰越金額 31千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

北豊島地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
地域掲示板設置事業	254	修繕料 254	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。また、地域団体と共に使用出来るようにする。	天神2丁目高架下公園前に以前から自治会掲示板としてあったが老朽化し、地元から建て替えの要望があった。	掲示板が新設され、地域の広報が掲示され、喜ばれている。広報を見て、イベントに参加したと声を聴くようになった。	利用者も多く効果大と思われる。	他地域で掲示板設置要望があるが設置場所(私有地踏込スペース等)に問題があり、今後検討をしていきたい。	各部会でまとめられていたものを役員会で決定する。	本年度は長年持ち越してきたままプラザの機械室の改修を行い、拠点としてのさらなる機能強化が図られたものと認識。	地域の広報に寄与している。適切な管理をお願いすること。	地域分権・協働課自治振興費
きたしまプラザ改修事業	3,996	修繕料 3,996	きたしまプラザの旧空調機械室を改修し、地域住民の憩いの場として談話室(喫茶室)を整備する。	きたしまプラザ内集中空調用機械室で空きスペースになっていた。	平成28年度より補助金(基金)積み立て、地域住民の憩いの場として談話室として改修し、有効活用をしていきたい。	地域の方々に談話室改修完成をPRし、多くの方々に利用していただきたい。	気軽に利用いただける談話室として運営管理をしていきたい。		空きスペースを有効活用し、幅広い年齢層の方が利用できる場所へと改修された。	協議会の今後の有効活用を期待する。	総務課財産管理費
AED管理事業	307	器具費 297 消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、使用期限が切れる本体(箇所(住吉会館))の更新を行う。また定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるような維持管理を行う。	住吉会館に設置されている、AED機器の本体 豊島北会館の部品使用期限が切れるので交換を要した。緊急使用時振動作がないように本体及び部品使用期限が来た部品交換必要性があった。	高齢者等利用の多い、住吉会館 豊島北会館に設置し、地域住民の安心器材として実物を見ることが出来、安心意識も高まっている。設置場所のPR 使用訓練講習が必要。	設置場所を知り、現物を目にする事が出来るようになり安心感がある。	医療機器なので使用期限があるので交換等が必要と考えられるが本体等の交換となれば高額になるので維持管理については市で管理をお願いしたい。実際に使用するとなると不安が残るので使い方の講習等も定期的にする必要がある。今の所庫内に設置されているが実際は屋外に設置されたいと思ふ。		共同利用施設等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後とも引き続きAED設置・管理を頼むに基づき、救命講習の受講に努めていきたい。	健康増進課保健衛生係費	
街路灯強化事業	267	電気使用料 15 修繕料 252	安全・安心なまちづくりの一環として防犯対策強化を目的に街路灯を整備する。	北豊島地域に於いて、道路照明が不十分で道路狭小など道路交通、防犯上問題があった。	通学路や交通量の多い又は狭い道路の照明が不十分であると思われる場所の交通安全を図る	道路照明の設置ならびに灯器のリニューアルにより夜間も明るく通行でき、防犯上も安全になったと地域住民からも喜ばれている。	今後も地域から要望もお聞きし、設置必要のある場所については年次ごとに提案設置を進めていきたい。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課交通対策費	
道路安全対策事業	1,500	修繕料 1,500	児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	北小校区 周辺道路では十分な歩車分離が出来ている道路が少なく、又通過車両も多く、通学時の安全安心確保が保持できていない。	北小児童通学路の指定受けている道路等の路側にグリーン塗装をした。	通学路の路側にグリーン塗装をすることによって児童 車両運転者ともに注意喚起することが出来た。	予算があれば短期間で指定通学路のグリーン塗装をしたが毎年計画的に実施していきたい。地域における登下校の児童の安全確保はもちろんです。これらを迎える高齢者社会ハンデキャップのある人への対策として安全標や交差点表示や点字ブロックの設置も考えていきたい。		交通安全性の向上による効果があったと評価。	道路・河川課道路維持費	
市民レクリエーション大会事業	150	行事報償金 150	住民間のコミュニケーションを図る、校区レクリエーション大会に必要な備品の購入を行う。	事業報告書の通り	事業報告書の通り	事業報告書の通り	事業報告書の通り			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	700	補助金 700	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	これまでと同様に隔月に広報紙を発行し、地域住民との情報交換を媒体とする事を目的にしました。(5回/年間)	平成30年度も目標通り隔月に広報紙を発行することが出来ました。(60号発行)機関誌として定着した様に思われる。	地域のコミュニティ紙として親しまれて、定着し、協議会の活動状況を広くPRが出来ている。	推進協議会からの広報紙としての側面のみならず、多くの方々の意見等投稿が掲載できる様、努力していきます。今後も広報紙を活用し、活動状況 イベント等をPRして行きたい。		両面1枚の話題に多くの情報が見やすくまとめられている。広告の掲載など、工夫も見られる。	秘書・広報課自治振興費	
防災訓練開催事業	20	補助金 20	協議会拠点でもあり、各種教室等で多くの人たちが集まるきたしまプラザでの非常時に対する防災訓練を行う。	北豊島地域において、予想される 東南海地震 地球温暖化に伴う異常気象による局地的豪雨等の災害に備える必要がある。	池田市危機管理担当者に講師をお願いし、平成30年9月に北豊島地域の幼児から高齢者(約70名参加)による防災講習を実施した。	幼児から高齢者にわたり、防災に対する認識が深まった。	防災は地震 大雨 火災等 様々な事象あるのでそれぞれに沿った防災講習を行ってきたい。		防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。	危機管理課自治振興費	
豊島北2丁目公園整備事業	200	補助金 200	豊島北2丁目公園向きに照明を設置し、夜間の安全性を向上させるとともに、非常時には、きたしまプラザの非常電源を利用し、非常灯としても利用可能とする。	豊島北2丁目公園(東側)LED照明灯外灯設置工事。	H31/3完成 公園の治安改善も大幅に改善された。現在設置中のソーラー発電(非常時照明)に追加で通常は一般回線にて使用、非常時に蓄電池へ接続。公園の治安改善も図る。消費電力が30w以下と少なく、非常時におけるきたしまプラザ内照明等に影響なし。	地域の治安改善と地域住民に与える安心感は計り知れず。非常時の公園照明と公園治安改善(学校事業ふくまる塾参加学生の安全確保)が大幅に改善された。	・設置後の環境の変化を積極PR・コミュニティ協議会としてのソーラー発電有効活用看板設置、広報誌での積極紹介		照明の設置により、夜間の安全確保や治安改善に効果をおいている。また、非常灯として利用できることは災害時等への備えにもなっている。	総務課自治振興費	
きたしまプラザ活用事業	2,163	補助金 2,163	地域住民相互の交流の拠点として住民対象の文化教養教室、子育て支援活動、また中学生学力向上のために「お泊り会」はばたき塾 開講支援等を行う。	コミュニティ推進協議会の拠点 各種文化教室開催場所 学力向上の為 夜間教室(はばたき塾 83回 2,525人)の提供 子育て支援 地域住民相互交流 親睦の場として開放運営する目的で十分に活用されています。(利用回数及び参加者 1,396回 17,966人 教室230回 4,276人)	きたしまプラザを地域住民相互の交流拠点として 住民対象の文化教養教室 子供支援活動が出来た。池田ふくまるはばたき塾の開講支援 空調機械室を整備し、来年度本格的に高齢者等憩いの場、談話室が誕生するので有効活用していきたい。	今後も多くの地域住民に利用される協議会拠点として運営していきたい。本年度空調室を談話室に改装し、来年度より高齢者 地域の方々 などで気軽に利用できる談話室にしたいと考えております。		地域住民を対象とした教室や活動のために場を提供し、住民からの認知度も高い。住民同士の交流の場として貢献している。	総務課自治振興費		
きたしまプラザまつり事業	40	補助金 40	協議会の活動状況を年に1回、地域住民に広くPRすることを目的として祭典を開催する。	プラザを利用している各教室の発表の場や、プラザを利用する地域の住民が一同に会する機会が少なかった。	教室同士の集まりと今まで関心の少なかった人も集まる事が多かった。	新たに教室へ参加する人やプラザ祭り次回開催問合せが増えた。	マンネリ化しない様に新しい企画 運営段階で多くの方々の地域住民に参加してもらって検討する。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
地域行事活動促進事業	75	補助金 75	地域行事(校区盆踊り大会・校区祭礼等)に必要な備品の支援を行い、地域内行事の活性化を促す。	日本の伝統行事のまつり、盆踊り等住民の情報交換が希薄になっている。昨今 住民の対話活性化を計るべきである。又、地域活性化のために何か協力する事があればと思っていた。	まつり 盆踊り等 人口の減少、高齢化に伴い資金面で取りやめる所もあつたが少額ではあるが助成金を出すことで住民対話も高まり少しずつつづつてあるが活気ある行事が行われるようになった。	地域の行事に参加者も増え、明るく より良い街づくりができると思う。	地域 場所により条件の違う状態にあると思うのでそれぞれの助成金支払先の意見等聞きより良い方向に配慮する必要があると感じる。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

環境美化ウォーキング事業	39	補助金	39	継続的に地域の清掃活動を行うために必要な用具を購入し、子どもたちを含む地域住民が地域美化活動を展開する。	第1回目は「熱中症対応」の為中止、3/10 荘園1〜2丁目の1回/年のみ実施。「ゴミを拾い」ながら「ウォーキングで健康に」「地域神良く」を目的とした美化活動(第1〜3回目)を実施。終了後「ゴミをなくすには？」を考え、「ゴミ分析データ表作成と啓蒙(市発行)看板の設置」を重点的に、環境にやさしい街づくりを目指す。 ・近郊住民、各種団体・子供会・企業より50〜60名の参加を得る。 ・健康改善の為2km程度のウォーキングを実施。 ・啓蒙看板の設置実施。 各地区の活動が浸透しており、啓蒙活動の効果がうかがえる。	「ウォーキングで健康に」散歩しましょう！ 「ゴミはどこにあるの？」探しましょう！ 「ゴミ退治」ゴミを拾い掲示板をつけます！ を目的に ・環境美化活動を継続することによる地域の自主的活動を拡大する。ウォーキングにより、気持ち・見る目の変化・四季の変化を肌で感じ、地域の変化を感じる。 ・小学生の参加により継続性を期待。	・ゴミ発生分析結果の活用法。ゴミ検目による環境改善と健康を目指すことが課題であり、地域活動家、学校との連携をとる。 ・子供〜高齢者まで、楽しく参加して貰える環境づくりの継続を心がける。	美化活動と健康を上手に繋げた活動としてあり、看板の設置により効果的な啓蒙ができていた。環境政策課 自治振興課	
環境にやさしいエコクッキング講習会開催事業	40	補助金	40	楽しい食事ができ、環境に配慮したレシピに優しいクッキングスタイルの講習会を開催する。	「第六回エコクッキング」野菜ソムリエによるキッチンからできる地球への思いやりをテーマに「いざという時」としての便利な缶詰」・アレンジレシピで効率よく使いこなしましょう ・いろいろな工夫でムダをなくしましょう！！ 毎日の食料調達から料理、食事、後片付けまで、環境に配慮する。累計にも優しい、これからのクッキングスタイルを先取り継続と浸透を目指す。	H31.1/27に実施(1回/年)参加者27名 きたてしまブラザに2名のヤサイソムリエの方に「いざという時」としての便利な缶詰」「果物の食べ比べ」「エコクッキング講話」と題してイルミネーションも点灯。実践。幅広い年代、が楽しく学習し料理と知識を習得する。	（食料の調達〜調理〜食事時の努力〜後片付け）まで一貫した、エコロジーを身をもって実践できた。日頃何気なくやっていることであるが、新鮮な感覚にて自然に身につけてもらえた。	家庭でも季節を味わう思いやりをして貰う事を心がけて貰う。 ・食材を調達・出来るだけ地元産の食材を近くの店へ調達 ・調理…油使用を控え加熱・冷却しないメニューを検討。食材は残さない。 ・食事の時…調味料を控え食べ残さない。 ・後片付け…洗う前にナフキン等で油分を拭き取りとぎ汁やゆで汁を有効に使う。 ・季節感を考慮。	野菜ソムリエを講師に招くなど工夫をこらした企画、運営されており、楽しみながら食品ロスなどの環境問題を考えることができて取り組みとして評価できる。
地球にやさしい思い出作り事業	50	補助金	50	廃棄天から油を利用し、凝固剤等で固めたエコキャンドルを作成・点灯し、エコキャンドルフェスタを実施、住民の思いの場づくりを行う。	「みんなで広げるエコキャンドルの輪」廃油の再生利用を目的とし、多くの参加を頂き、廃油ローソク作りを体験し…準備〜キャンドル点火〜後片付け（分別回収を含む）… 今回も前回に続き、図柄を公募とした。	12/23に第四回目を実施 参加者・25名 廃油リサイクルによる「エコキャンドル」みんなで広げる地域の輪 今回は、参加者のオリジナル作品作りと、公募図柄（ワゴンちゃん）の点灯に成功。追加としてイルミネーションも点灯。 今回は、目的を理解して頂く為、作成ローソクは、持ち帰りとし、参加者に楽しんでもらえた。	楽しい時間を共有し、「人・文化・自然」のコミュニケーションをより強くして「どうすれば地球環境を見直す事」を日常の中で、考えて頂く感触は隔めたかと思えます。 廃油を活用したオリジナルローソクづくりで楽しさを体験していただけた。	・今回、屋外での作品作りを予定していたが、天候不順の為出来ず、今後課題である。 ・参加者の協力と理解を得る事。時期・点灯時間を考慮する必要あり ※次回は園芸高校とのコラボを検討。 ・火気厳重注意。 ・やけどに注意。	廃油再利用によるリユース啓発と、コミュニティ活性化に貢献している事業として評価できる。
公園花いっぱい整備事業	50	補助金	50	地域の子ども達が安全に遊べる場の提供として、豊島北2丁目公園に花壇を作り花を育て、地域住民の憩いの場とする。	豊島北二丁目公園にて「地域の高齢者休憩所、幼い子供たちの遊び場、若いお母さんへの憩いの場を提供」し、多くの方の参加により環境改善・維持を継続していく。	6/16、11/24の2回実施 園芸高校の先生/生徒さんの指導を受け、地域住民の皆さんと協力し花壇に季節にあった草花を植替し憩いの場としての維持管理を継続。	地域住民の参加により、季節にあった花を植え、観賞する。花の植え方、育て方等の実地講習を受け、花を可愛がる人の心に寄り添い、子供が安心して遊べる安全で清潔な公園と喜ばれている。	年2回の花植え実施に園芸高校の先生/生徒さん・地域住民の皆さんの一層の協力を今後もいただく事が必要。 近隣の方の積極参加をいただけるよう努力する。 花壇の維持管理を行う。花泥棒に対する注意喚起を怠らない。 日没より公園が非常に暗くなる為、今期に照明を設置し環境改善を実施 来期には効力を発揮するであろう。	豊島北2丁目公園の花壇の手入れ、管理を園芸高校と協働で実施しており、地域の憩いの場となっている。
豊島東公園及びバスケットコート維持管理事業	194	補助金	194	バスケットボール等を通じて、青少年の健全な育成を図るとともに地域住民の憩いの場を提供する。	開園以来 多くの地域住民 子供たちが安全に遊べる場 青少年がバスケットゲームを通じてコミュニケーションの場としてコート及び遊具の維持管理が必要であった。	バスケットコート ゴールネット 遊具の安全チェックを、月に1回の会員による清掃作業 開閉時間管理等 整備された環境を維持できている。	土日には多くの住民 青少年がバスケットを楽しみ、健康増進に役立っている。 青少年も使用後整備整頓が出来、意識の向上が見られる。	完成後経年劣化進み、コート シュート板等の傷みも激しく、近年度に市 ネクスコ 西日本の協力いただき全面改装を考えている。	バスケットコートを含めた公園の一部管理を実施することで、青少年の健康増進につながっている。
地域医療講座開講事業	10	補助金	10	高齢社会に向けて、認知症等の防止・改善等に対する講座を開催する。	地域住民に役に立つ医療関係の講座を定期的に開講して行きたい。	自分らしく生きるために(終活 医療介護等)講座(3月27日)の開催45名の参加者あり、(講師 市立池田病院 今井院長)関心がある事を実感、今後も講座内容を考え継続していきたい。	講座は3回目でしたが参加者人員は横ばいですが効果は望めると確信した。	少しでも健康が保てる様に人に迷惑がかけられない様に生きる考えをできる講座を今後も続けたい。	地域の医い連携推進事業のなかで作成した。将来の意思決定能力の低下に備え、話し合うプロセスをまとめた冊子も役立つのではないかと。
子育て支援事業	730	補助金	730	あそびの広場（年間48回）とびよびよクラブ（年間42回）を開催し、紙芝居や絵本、TVシアター等親子のふれあい遊びと子育ての悩み等を関係者とともに語り合う。	継続事業ですが当地域には以前から未就学児に対して子育て施設がなく、公的支援のない中、子育て中の母親より子育ての仲間グループ設立の要請でわが子が設立され、当協議会が事業として支援をする。	木田弘子氏中心にブラザ内の一室(ふれあいルーム)を開放し、テレビ等による7分劇場 重話の読み聞かせや市より支給のおもちゃ等での遊び、秋の運動会 クリスマス会 夏の水遊び等わが子が運営され、平成30年度未就学児とその保護者2,962名の参加がありました。 子育ての悩みと話し合え、好評を得ている。 指導員有償ボランティア制度を導入し、運営しています。	母親たちにも好評で幼児を明るく元気に育て、自分自身の子育ての悩みも共通した話題が出来、参加者も年々増えつつある状況で事業効果は上がっていると思います。 個人相談室や3歳児中心の『びよびよクラブ』等開設	木田氏を中心に事業活動を展開しているが内容から見て有償ボランティアに切り替えたいが限度があるので検討を加えたい。出来れば何かの形で市の支援をお願いしたい。 指導者の高齢化に伴い、新しい指導者を確保していきたい。	親子が楽しみ安心して利用できる場として地域に定着していると評価。地域子育て推進会議等で子育て支援関連機関と連携しながら、地域に根付いた活動を継続するとともに、人の資源の発掘に努めてほしい。
計	10,885			事業提案限度額 12,097千円 次年度繰越金額 1,212千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

くれば地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100		協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。							地域分権・協働課 自治振興費
地域掲示板設置事業	263	修繕料 263		老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	地域内(姫室町)にある掲示板の老朽化が激しいため、広報活動に支障があった。	老朽化した掲示板に変わり、新たに設置した掲示板は、ワイドで大きなポスターも充分張ることができ、住民からも賛辞の声があった。	ワイドで見やすい掲示板に付け替えたため、地域の広報活動が活発化している。	地域のお知らせや地域コミュニティ推進協議会の活動も、この掲示板を通じて地域住民に広く知らせることができ、今後も広報活動の充実を図る。	各事業責任者の意見を聴き、協議会で決定する。	本年度も道路安全対策や会館機能の充実等の提案の中で、地域で出来るところは協議会をお願いしている。	地域分権・協働課 自治振興費
道路安全対策事業①	406	修繕料 406		歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	交通事故等の危険をはらんでる交差点に安全な施策を推進して事故の防止を図る。	カーブミラーの設置により、死角が解消され安全性が向上した。	これまで見えにくい人や車の往来がカーブミラーの設置で確認でき、子どもやお年寄りを交通事故から守られるようになった。	地域内には、まだまだ危険箇所が存在しているが、カーブミラーの設置を順次検討していきたい。	事務所のあり方については、人員体制も含め、あらためて地域内で議論いただき、安定的な運営を期待する。	交通安全性の向上に一定の効果があったと評価する。	道路・河川課 交通安全対策費
街路灯強化事業	454	電気使用料 11 修繕料 443		夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	地域内の街並みですす暗い道路等に街路灯を設置し、安全確保に努める。	地域内に街路灯を設置することにより、夜間の安全を確保することができた。	市民が通行する道路に街路灯を設置したことで、地域住民から安心して夜間の通行ができることの喜びの声が聞こえてきた。	地域内のうす暗い場所等に安全確保のため、街路灯の設置を進めていきたい。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課 交通対策費
呉小吹奏楽クラブ支援事業	441	校用器具費 441		呉小吹奏楽クラブの楽器購入を支援する。団体の活動支援を行う。	呉服小学校の吹奏楽クラブの楽器が老朽化していて、正確な音程を出せない状態である。	老朽化した楽器(テナークサク)を新規購入することで、古い楽器を新しく入ってくる児童の練習用に活用している。	新しい楽器演奏で技術の向上に役立つとともに、練習用の楽器ができたことで更なるレベルアップが図れる。	年々老朽化する楽器を計画的に買い替えることがこれからも必要と思われる。		使用可能な楽器の1層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	350	行事報償金 350		地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。コミュニティ意識の向上に努める。	地域のスポーツ振興会が開催している市民レクリエーション大会を支援する。	当協議会が行事報償金として支出することで、地域住民のコミュニティ意識の向上を図る。	市民レクリエーション大会に当協議会が参画することで地域住民のコミュニケーションの向上が図れた。	他地域の行事報償費も検討し、校区の市民レクリエーション大会が活性化できるよう努める。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	482	補助金 482		地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	協議会の存在や活動内容について、地域全体に広報することで理解を促している。	校区に居住する住民に、協議会の活動報告を届知することにより、協議会の活動について理解が得られた。	結果、校区に居住する住民から協議会への参画希望が増加し、特に若い世代の人達からの新入会員が得られた。	今後も益々内容の充実を図り、毎年実施している事業のお知らせや協議会への参加を促進していきたい。		若い住民の参加が増えたことは大きな効果。今後も引き続き読み応えがある誌面作りにも努めてほしい。	秘書・広報課 自治振興費
合同防災訓練事業	180	補助金 180		不慮の災害時、地域住民と協力し難局を乗り越えられるよう、住民相互による協力関係を構築するため、呉服小学校区内の合同防災訓練を実施する。	校区内での防災訓練は、昨年8自治会で実施して、実際の災害が発生した場合を想定した上で、地域住民同士が一体感を得ることができた。	呉服小学校を活用して、合同防災訓練(8自治会)を実施することで、地域住民同士が一体感を得ることができた。	不慮の災害時、自主防災会と地域住民が協力して難局を乗り越えられるよう、相互信頼の構築ができた。	防災訓練の内容をより充実させることにより、地域住民との信頼関係をさらに向上させること課題と思える。		防災訓練の実施により災害に備えようとする意識の向上、自助、共助の推進を期待する。	危機管理課 自治振興費
青パト隊パトロール活動事業	205	補助金 205		青パト隊による地域巡回活動を行い、各種犯罪の抑止に努め、安全な地域環境をつくる。	青パトでの呉服小学校区内巡回パトロール実施により、各種犯罪の抑止効果を図る。	呉服会館敷地内に設置した青パト駐車を拠点に、隊員による巡回回数や巡回範囲の拡充を図ることで地域の安全確保ができていた。	呉服小学校区内の細い道まで巡回範囲を広げることにより、各種犯罪の抑止効果に車両を活用できた。	より一層の巡回活動の充実を図る。		今後もパトロール活動の強化に努めていきたい。	危機管理課 自治振興費
地域コミュニティ推進協議会拠点管理運営事業	1,152	補助金 1,152		呉服会館を地域コミュニティの拠点施設として管理運営を図る。	共同利用施設「呉服会館」の一室を地域コミュニティ推進協議会の活動拠点として、備品等の整備を進めている。	地域コミュニティの拠点として、地域活動の活性化が図られた。	協議会における役員会や各部会の活動が活発に展開され、地域分権推進に大いに役立っている。	小会議室の再整備と備品購入で協議会活動の更なる活性化を図る。		人員体制を含め、拠点のあり方についてはもう一度みなさんと議論していただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館設備改修事業	794	補助金 794		呉服会館の畳及びカーテンの整備を行い、利便性を向上させる。	地域内の共同利用施設「呉服会館」のカーテンの修繕、畳新調してほしいと、利用者からの要望があったので購入した。	共同利用施設「呉服会館」を改修することにより、とてもきれいになり利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した施設を改装することにより高齢者も利用しやすくなり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の設備も改修を検討していききたい。		会館の利便性が向上したものと評価。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	253	補助金 253		地域内会館の備品整備を行い、利便性を向上させる。	1. 地域内の共同利用施設「姫室町会館」パイプイスが老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。 2. 地域内の施設「宇保会館」の座卓テーブルが老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。 3. 地域内の施設「呉服会館」のホワイトボードが老朽化しているため、利用者から買い換えの要望があったので購入した。	共同利用施設「宇保会館」「呉服会館」「姫室町会館」の老朽化した備品を新規に買い換える。改装、整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	老朽化した備品を新規に買い換える、改装、整備することにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	他の共同利用施設等の備品も買い替えを検討していききたい。		各会館の実情に応じて、利便性が向上したものと評価。適切な管理をお願いしたい。	地域分権・協働課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	300	補助金 300		地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	地域内のイベント備品を利用者からの要望があったので購入した。	テント、テーブル整備することにより、利用者の賛辞の声を届いた。	地域のお祭り、イベントに貸し出すことにより企画行事が円滑になり大いに歓迎されている。	必要なものを厳選して、購入したい。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
くれば祭り開催事業	800	補助金 800		くれば祭りを各種団体と協働で開催する。地域の人と人との繋がりを深め地域コミュニティの活性化を図る。	くれば地域内のコミュニケーションの充実を図ることを目的に合同で祭りを開催する。	地域内の各種団体の協力を得て、大正琴をはじめ低価格模擬店等で盛り上げていただき、地域内のコミュニケーションの充実を図ることができた。	今年度は5月に呉服小学校で開催し、地域内の幅広い年齢層に参加してもらい、祭りを盛り上げることができた。	地域内のコミュニケーションを今後も積極的に図り、地域のつながりを広げていきたい。		事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
リユース活動事業	50	補助金 50		家庭で不要になった子ども服等を融通しあうことでリユースを推進する。	衣服に名前を書いてしまっているような衣料品は活版屋での引き取りをしてもらえず捨ててしまわなければならないので、融通しあう家庭で不要になった子供服をリユースする。また呉服小学校校体操服のリユース	とても好評で、来年もぜひ聞いてほしいという言葉を頂いた。先生方にも高評価でした。	当日手伝って頂いた方に、コミュニティ推進協議会に参加登録していただいた。	他の分権などに開催を望む		特に子育て世代に有効なリユース事業である。対象世代のコミュニティ形成にも有効と考える。	環境政策課 自治振興費
呉服小学校花いっぱい運動支援事業	180	補助金 180		地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を行う。	地域と学校が一緒になって花を育てる活動を支援する。 満寿美町内にあるプランターの手入れ	「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動を支援する。 満寿美町内に緑が増えた	呉服小学校と地域と一緒に花を育てるプロジェクトに参加し、子ども達が花を育てる喜びを、感性豊かな心を育む事ができた。 地元の方々に好評を得た	感性豊かな子ども達を育てていく事業にも、今後とも積極的に対応していききたい。		今後も地域と学校が緑化活動を通して、ふれあいの場を広げていくことに期待する。	公園みどり課 自治振興費
道路安全対策事業②	247	補助金 247		児童が登下校の際に利用する通学路にグリーンベルトを設置し、児童の安全を確保する。	児童の登下校時に利用する通学路上に、交通事情の激しい危険な箇所があり、交通事故が発生しないかと気になっていた。	交通事情の激しい危険な通学路にグリーンベルトを敷設したことにより、交通事故から子ども達を守る事ができる。	グリーンベルトの設置により、登下校する子ども達を安全に誘導できる事により、交通事故を回避できる。	地域内には、まだまだ危険箇所があるので、順次設置に向けて対応したい。		交通安全性の向上に一定の効果があったと評価する。	道路・河川課 自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

キッズランド支援事業	116	補助金	116	<p>呉服小学校で行われている「キッズランド」で使用する用品を購入し、子育て支援を推進する。</p>	<p>地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備し、子育て支援を推進する。要望が市民からあった。</p>	<p>地域内の呉服小学校のキッズクラブに遊具備品を整備することにより、子供たちの環境が改善した。</p>	<p>子育て世帯の市民は日々負担増であるが、少しでも安心安全の助けになっているので大いに歓迎されている。</p>	<p>今後も支援していく。</p>	<p>遊具備品を整備したことで、子どもたちが遊具を取り合うことなく充実した活動を展開できた。有効な事業として評価できる。</p>	<p>教育センター 自治振興費</p>
グラウンドゴルフ実施事業	90	補助金	90	<p>高齢者と若者が一緒にグラウンドゴルフを行い、スポーツを通じて地域コミュニケーションを図る。</p>	<p>グラウンドゴルフの普及とスポーツを通じての地域のコミュニケーションを図る。</p>	<p>年4回のグラウンドゴルフ大会を開催することにより、地域住民同士のコミュニケーションが図られた。</p>	<p>参加者は会を重ねるごとに増加し、グラウンドゴルフを通じてのコミュニケーション作りは効果あり。</p>	<p>若者の参加が得られなかったことなど、今後の広報活動や運営の方向性に検討の余地あり。</p>	<p>スポーツを通じた地域住民どうしの交流促進につながった。</p>	<p>生涯学習推進課 自治振興費</p>
計	6,863			事業提案限度額 15,227千円	次年度繰越金額 8,364千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

石橋地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への普及及び周知に係る事務費。								地域分種・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	508	電気使用料 73 設備保守点検委託料 435	安全で安心な暮らしの実現に向け設置した防犯カメラの維持管理を行う。	一部死角になっていたところ、及び、犯罪者の逃走経路抜けモレが有り。	設置箇所も増え、安全で安心な暮らしが出来る。又、第三者の目(者)による期間中(夏休み/大型連休)の見守りが可能となる。	設置箇所が増えたことによる抑止効果ありと判断します。	リースのような、安価な設けで、管理費の軽減。各家庭への援助(企業)の電柱中活用等の検討が必要。又、高層(1)の屋上への設置/車載が等も今後の検討課題とする。	各部会でまとめられたものを、役員会で決定する。	他地域に先駆けて要したものは大きく評価する。協議会が地域の他団体と非常に密に連携できてい証でもあり、また当該活動によって、さらにコミュニティの深化が進んでいくものと認識。	継続的経費について詳細の了解、適切な維持管理を適切に行う。	他役管理課 自治振興費
地域内会館備品整備事業	1,264	庁用器具費1,264	地域内会館(井口堂北会館)の備品整備を行い、利便性を向上させる。	地域内会館で利用者が多い井口堂北会館の会議室の長机、椅子、スリッパを買換えた。長机、椅子は、古くて重く、色合いも暗く、机と椅子の高さ乖離や配置、格納等に利便性を図りたい。	長机は表面は白く、椅子は明るい色合いで軽く、利用者からも好評である。	長机、椅子とも軽く、利用する高齢者も出し入れがスムーズに出来ている。	机、椅子の数量が未だ不足している。スリッパも古く、汚れが目立ち利用者からも買換え要望が多く寄せられている。現下駄箱も薄汚く、作り替え若しくは大清掃が必要。		会館の利便性が向上したものと評価している。積極的にご利用いただきたい。	地域分種・協働課 共同利用施設管理費	
地域掲示板設置事業	505	修繕料 505	老朽化した地域の掲示板を取り替え、地域団体と共に使用出来るようにする。	掲示板が老朽化して見難くなり、石橋コミュニティとともに地域団体等の情報提供が十分に行き届かないことがあった。	見やすい明るい新しい掲示板が設置されたことよって、石橋コミュニティとともに地域団体等の情報提供が十分に行き届くことになった。	見やすい明るい新しい掲示板を通して地域に必要な情報、地域の行事、石橋地域コミュニティや地域団体等の活動内容等、を広く伝達することが出来た。	地域の年間イベントの繰返しのお知らせが多い。そのため話題性のある催しものを取り上げたり、自然災害時の対応、地域安全、等の地域に関連する幅広い事項も掲示していきたい。		自治会とも連携し、地域内のコミュニティ強化にも寄与。適切な管理をお願いするところ。	地域分種・協働課 自治振興費	
AED管理事業	10	消耗品費 10	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換し、正常に使用できるよう維持管理を行う。	期限切れ、及び、バッテリーへの不安あり。→撤去へ方向転換	いざという時に、心臓マージが出来るか？	他地域の状況、市との協力体制等情報収集しながら、どのようにするか要検討。不明？	幸いにも、殆ど出番がなく、使用方法がわかる経験者(訓練実施者)が減りつつある中、AEDに替わって一番有効な心臓マッサージの訓練回数を増やす及び、訓練が簡単になっても出来る機材の設置検討、ならびに研修/講習会を頻りに開催するよう検討する。		健康増進課 保健衛生総務費		
街路灯強化事業	42	修繕料 42	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	いつ壊れるか不安であり、定期点検/交換を実施することにより、安心を買う。	壊れる前に、事前点検交換を実施し、正常な状態をキープしている。	死角の減少により、夜間の事故や犯罪を未然に防ぐことが可能	電圧機能付き及び、ソーラー電源に変更することによる、消費電力抑制及び必要時の明るさ確保。又、今後の自然災害に備えた設備への移行を検討要。		街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課 交通対策費	
道路安全対策事業	203	修繕料 203	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にカーブミラーを設置する。	いつ事故が起こるか不安であった。	見通しが良くなり、歩行者が安心して通行可能。	歩行者の安全確保ができ、見通しの悪い交差点減少。	車両等のスピードを抑制し、歩行者の安全を確保する為、各種セーフティマシナリ他を採用し、交通安全対策(最小限)に防ぐ手段の検討が急務である。		交通安全性の向上に一定の効果があったと評価する。	道路・河川課 交通対策費	
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の向上とコミュニティ活動の充実に努める。	当事業も地域住民市民運動会として毎年10月第2日曜日に開催されることが浸透しているがさらに幅広く参加を呼びかけた。	今年度は、天候の関係で近隣の幼稚園と同日開催となったが参加人数は例年と変わらず大盛況で大きな事故もなく終えることが出来た。	石橋校区スポーツ振興会を中心に各団体間の連携がスムーズになり、協働する参加者が年々増加し、各人間の繋がりも太くなった。	今年度、1種目新たなプログラムに変え新鮮さを図り、より参加意欲を盛り上げた。スポーツ推進委員の存在、活用方法をより以上図る必要がある。		地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	400	補助金 400	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸配布する。	コミュニティの各部会が行う事業内容を住民にPRすることでコミュニティの存在と役割を知ってもらう為に行う事業。	年間2回の発行、旭丘、井口堂と石橋地域がお互いの地域コミュニティの活動内容と地域性を認識できた。また自然災害が頻発したことから災害対応(火3避難場所地図、等)や進捗するネットワーク対応の記事等、地域の現状、コミュニティ推進協議会の事業及び活動内容を広く伝達できた。	紙面を通して地域に必要なニュース、学校と地域のつながり、地域の行事等「特殊詐欺」に引っかけられない等、PR出来た。地域の現状、コミュニティ推進協議会の活動内容等の伝達とともに、石橋地域コミュニティホームページの活用で石橋地域の情報発信は進展した。	地域コミュニティの中の事業には継続型が多い、紙面が報告の記事ばかりになる。そのため話題性のあるものとして自然災害時の対応、敬老の里プロジェクト、我が事などが、等の地域の関連記事も扱いたい。		左記記載のとおり、災害や特殊詐欺防止の啓蒙など、話題性の高い重要な情報をうまく取り入れている。	秘書・広報課 自治振興費	
避難行動要支援者対策事業①	225	補助金 225	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安否確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	既存の地区委員や団体会員による身近な高齢者等要支援者への声掛けやフォローを行っていた	池田市危機管理課に提供された避難行動要支援者情報提供に同意された方687名(平成29年6月20日現在)の方に対し年3回の訪問し、安否確認を行い現状などを話してもらった	訪問を重ねる間に所在不明の方の現状が判明したり、初めは訪問した確認員に疑問や不安を感じられた方も回数を重ねることに今までわからなかったことや、不安に思っていることを話され、自治会組織の薄れた地域で生活している要支援者の安心につながった	地域の要支援者はこれからも増加することが予測され、それに対応するための確認員の人数も確保していかなければならない。確認員の名札所持しているにも関わらず、不審者と思われたりもあり大変な事業でもある。そのためにも市でも事業の活動を広げてもらう等、協力しなら地区の要支援者を見守り、災害時には少しでも地域住民の情報が即時にわかるようにしていきたい		池田市において最初に評議会を立ち上げて、要支援者対策を前向きに実施して頂いており、パワポア的な存在である。大変な業務ではあるが、今後も継続的な実施に期待する。	他役管理課 自治振興費	
避難行動要支援者対策事業②	217	補助金 217	石橋小学校区の要支援者のうち、要支援に同意された家庭に対し、定期的に安否確認を行い、非常時には避難誘導に努める。	訪問して、事業の内容や所属等を説明するのに時間を要した	一目で確認委員とわかるように写真付きの確認証とベストとバッグを所持したことで、安心して対応してもらえた。	回を重ねるごとに、要支援者の方に訪問を喜んでもらえた。	たくさんの資料や筆記用具をバッグに入れて行動するが、バッグの中身がバラバラになり訪問先やその途中での整理に時間がかかるため、バッグを整理できるようなものを考えたい。		他役管理課 自治振興費		
地域防災体制強化等事業①	1,000	補助金 1,000	自主防災組織の体制強化を図るため、防火倉庫に防災備品を整備する。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	緊急時に誰が何をすべきなのか不明確であった。	組織網の整備及び、緊急時の対応(訓練ではあるが)が出来た。	地域住民及び学校等の協力の基、連携をしながら訓練も出来た。今回は特に学校のご協力に感謝いたします。参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになると期待する。	各種の災害及び時間帯に即対応出来るか、訓練内容(夜間含め)を変えつつ継続実施する。学校の設備を使用せず、公園等に何も無い場所等から吹き出し可能かやってみる価値あり。又、備の身当手、身近にある物品を応用し、簡単に出来る方法等も織り込んでの実施としたい。		災害時における地域の防災力向上を期待する。併せて必要最小限の備品の整備が実施でき、災害時の適切な利用を期待する。	他役管理課 自治振興費	
地域防災体制強化等事業②	157	補助金 157	自主防災組織の体制強化を図るため、研修会を実施する。	自然の力/恐怖/何が出来る/日頃からの準備等知識不足	見て/知って/感じて、各自とらえ方は異なると思うが、自然のすさ/脅威を感じ、日頃の心構えが少しは変化したと思える。	今回は初めての取組みであり、参加者数の心配をしたが、関係者の協力の基、関係者が中心となった。思い込まずすすの成功と判断する。参加者各自の経験となり記憶の片隅にでも残れば、いざという時の助けになると期待する。	現在住んでいる環境(自然状態)に応じた、体験が急務と考える。土砂災害他各領域にある施設を見学し、疑似体験を多く積み重ね、豊富な経験として記憶し、いざという時に役立となるよう、地域住民により多くの参加を促す工夫を検討課題とする。		地域の安全確保に向けて必要に応じた使用及び効果を期待する。	他役管理課 自治振興費	
地域内会館備品運営事業	400	補助金 400	井口堂北会館に整備した備品の運用を行う。	コピー印刷機が地域内のボランティア団体に効力良く使用され費用、時間も軽減出来ていたが5年経過して、今年度に入ってから修理も増え困っていた。	新しい印刷機が入り、すみやかにコピー印刷出来、各団体とも、スムーズに資料関係については活用されることとなった	各団体の印刷費用、時間が軽減されより活動が活発に出来ている。	設置場所が2階廊下の為、印刷音が他の部屋の迷惑に響き、使用者からクレームが来ることもある。廊下の為夏は暑く冬は寒いので使用者が困っている。		共同利用施設の利用者の迷惑にならないよう、対応にたいくようお願いします。	地域分種・協働課 自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

地域行事等活動促進事業①	400	補助金	400	納涼大会等を実施する地域団体に電気設備設置及び活動運営を支援して、コミュニティ活動の充実を図る。	今年度は地震等自然災害を経験して、住民の安全・安心・連携性を考え、幅広く呼びかける。各店も照度アップ依頼も多く、参加者の安全を考えると電気工事が敷しなくなっている。	電気設備時、住民の協力参加が多数参加、中学生の参加は大変歓迎された。内容は明るく、大きな事故もなく、25周年記念納涼大会が終了した。	各団体のつながり、わが事丸ごと、校区全体の活動に協力参加の増加がある。	納涼大会の中心のやぐらの老朽化対策と電線ケーブルの点検、照明備品の充実。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
地域イベント備品整備事業	184	補助金	184	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	使用しなくなった、小中学校の机を使用、高さ違いなどがあり使用しずらく、損傷もたくさんできていた。	軽量で子どもでも運べたり、使用しやすくなった。清潔感があつてよくなった。	地域イベントには必ず使用されるようになり、学校からの借数が減った。	できるだけ、小、中学校に借用せず、イベント備品として増やして、整えていけること。	事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
リサイクル活動事業	30	補助金	30	ペットボトルキャップの回収リサイクルを行う。資源の有効利用を図ると同時に住民の意識を高める。	キャップ回収容器設置場所の増加、回収量の増加がほしい。	広域の設置場所として福祉センターに大2、小2を設置する。社会福祉協議会さんの協力を得ながら、資源有効のPR、石橋のPRとなった。	コミュニティ活動のPRと共に回収量も昨年より増加、他の部会とのコラボ（花いっぱい運動）が取り組めた。	回収作業の効率化を計る。	活動の広がりにより、リサイクルの推進と市民への啓発が効果的に実現できていると認識。	環境政策課 自治振興費
地域美化整備事業①	20	補助金	20	美しい街を目指すため、啓発用ポスター等を作成し、地域住民のモラルの向上を図るとともに3ヶ月に1回、地域の清掃を行う。	①啓発ポスター破損箇所確認・新規掲示箇所依頼	①今年度は、台風・暴風雨・の後は被害甚大。破損箇所補修済	①環境部員の活躍で、破損箇所全て補修済、見映え良くなった。	①啓発ポスター事業は、継続していきます。	この取り組みにより、美化意識が根付いてきているのは大きな成果と認識。	環境政策課 自治振興費
地域美化整備事業②	40	補助金	40	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、宅地周辺の雑草除去を行う。	②「美しい街づくり」ポスター配布家庭を増やせれば	②「美しい街づくり」ポスター配布枚数を前年度より500枚増やした。	②各家庭の雑草が少なくなり、庭が綺麗になって来た。	②「美しい街づくり」ポスター配布も、継続していきます。	地域により雑草除去を進めることで、美しい街づくりの啓発となっている。	公園みどり課 自治振興費
地域美化整備事業③	110	補助金	110	花や緑にあふれた「美しいまちづくり」を目指し、地域の幼稚園や小学校と協力しながら花を育てていく。	③「花いっぱい運動」小学校と地域の方のつながりを期待したい	③「花いっぱい運動」で出来上がった。花壇プランターを保育所・学校・施設・郵便局・交番・街角・公園に贈呈しました。	③「花いっぱい運動」は、石橋小学校の児童達と先生方、地域のボランティアの方々の美しい街にの気持ちを大切にしています。お配りした所は、世話をさせていただき、美しい街になってます。	③「花いっぱい運動」と「リサイクル活動事業」との新しい取り組み回収された。キャップで花いっぱい運動のプランターを作ってもらい小学校・地域の方々の絆を深めています。	地域の幼稚園や小学校など各施設へ花鉢の配布を行うことにより、地域緑化に貢献している。	公園みどり課 自治振興費
公園整備等事業	100	補助金	100	公園が憩いの場、遊びの場、集いの場として地域住民に積極的に活用されるよう、機能の維持・充実を図る。	1)公園遊具前の地面に雨の流れる川の様な溝が、6箇所あり深さ最大8cm・長さ7m出来ている。 2)公園トイレ横石橋保育所前雑草が生い茂っている。 3)花壇の周りには、例年通り大木の実・落葉、剪定だけでは無理 4)花壇は、前年度の花枯れ状態	1)石橋納涼大会前に環境部長とボランティアの方々で公園内の砂で、埋なおした。 2)約80㎡を芝生を植えた。 3)大木の実・落葉を取り除いた、が解決にはならない。花壇を別の場所へ移設も、無理(大木問題・白蟻等) 4)花壇・プランターに四季の花を植えた。 *公園内の雑草刈りは、月1回実施している。	1)雨降りの状況にもよるが、今年度の様な暴風雨では、修理前よりも酷くなっている。 2)植え付け後は、良くなった。が今年度の7月酷暑で1/3枯れた。(週1回の水やりでは酷暑を乗り越えられなかった。) 4)花壇・プランター共に綺麗に咲き誇っています。(週4回の水やりが、酷暑を乗り越えた。部員の努力のおかげ)	1)公園内の砂では駄目です。凹の箇所に土を入れます。 2)5期目の芝生の植え付けに、躊躇するが、1期〜4期までの効果を見れば、月1回の雑草刈りでは無理の為芝生の植付続行します。 4)花壇・プランター共に花の数を増やして行きたい。 *水やり問題点 花壇の水やりは、短時間(20分以内)芝生の水やりは、長時間(1時間以上)夏場は体力の問題 地域住民の方の協力を依頼することが必要	公園内の花壇の管理や雑草除去などをを行うことで、地域住民の憩いの場になっている。	公園みどり課 自治振興費
交通安全モラル啓発事業	70	補助金	70	車・人・自転車の事故減少及びマナー向上のため、交通安全モラル教室を開催する。また、交通安全対策として、標識看板の設置を行う。	自転車も軽車両であると言う認識も乏しく、標識の見方及び自転車の正しい操作方法等知識不足である。	幾分か理解できたと思われるが、当日だけであり、翌日以降実施できているかと言わずにはない。継続訓練が必要である。	即効性は無いが、毎回実施することが必要と考える。又、子供達だけではなく、家族全員の協力が必要であり、特に指導しなければいけない両親(特に母親)、おじちゃん/おばあちゃん/の運転マナーの悪さが目につく。及び保険の重要性。	子供達を中心に継続実施はするが、指導者である両親・おばあちゃん及びおじいちゃんへの指導が急務と思われる。他、保険への加入促進、並びに自転車の点検等地域の自転車店様のご協力の基、展開が必要である。集客力に課題有、自転車だけでなく、交通安全ということでも、ハト/白/イ/ストマによる事故再現等の協力支援を考えた。	継続的に行うことで、石橋地域の子どもに対してマナー向上につながった。保護者に対してもチラシの配布等で継続的に啓発することが必要であると考えた。	まちづくり・交通課 自治振興費
石橋小学校備品整備事業	80	補助金	80	小学校の体育行事等に使用する備品を整備し、小学校と地域との交流を深める。	市民運動会が毎年、石橋小学校から借用して紅白玉入れ競技を行っているが破損、汚れが目立ち使用不能の意見が多く寄せられていた	紅白玉が新調され、小学校と市民運動会に使用することが出来た	地域コミュニティの協力で紅白玉が新調されて学校、PTA、児童も大喜びで、以後の依頼等や交流がスムーズに進んでいる	学校の備品類もかなり古くなっており、地域で協力して整え相互に交流を深めて、子ども達の育成を見守りたい	老朽化した備品を再整備することによりスムーズに行事を行うことが可能となった。	総務・学務課 自治振興費
異学年交流事業	250	補助金	250	異学年交流により上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い敬う人間関係を幼少期から育成する。	子ども会、PTA、地域の人(校区内にあるボランティア団体)は各々の活動で協働で活動する機会が少なく交友が少なかった。	子ども達や若い保護者、地域の人達、高齢者住民が準備会議や事前準備、当日の運営を手助けする機会が増え馴染みになり子ども達に住民の声掛けを容易にし、挨拶する光景が増えた。	交流事業の認知度が上がり多くの人から協力の申し出があり、多くの人が参加して頂き、美味しく、楽しく、可笑しく、参加者全員が楽しい時間が過ぎた、今後も継続的に開催して欲しいとの要望する声が多くあった。	現在実施月の天候、気候が難しく、実施判断、材料購入等に思案することが難しく次回実施会議で検討する。 時間工程に中絶みに工夫したがより充実を図り、より家族ぐるみで参加出来る事業内容とした。	フェスティバルに子どもたちをはじめ、保護者や地域住民等が参加し、世代を越えた交流を図ることができた。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
計	6,515			事業提案限度額 10,222千円	次年度繰越金額 3,707千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

五月丘地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	321	電気使用料 9 機器備上料 312	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪件数のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	防犯カメラの設置について、費用対効果等の疑問を呈する意見もあったが、人間関係の希薄化、スピード化、犯罪の抑止効果を期待して設置を始めた。	当地域は市内でもとりわけ犯罪の少ないところではあるが、交通事故の実証等に効果を発揮した。	住民の間にも、設置に対する認識が広がってきた。当初は犯罪、交通事故を想定していたが、失窃等についても用途が拡大してきた。	管理、運営の正確化、迅速化を図り、結果についてのフォローがあれば今後の地域防犯の一助になると思います。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	昨年度に引き続き、防犯カメラの新設や防炎体制強化など安全・安心なまちづくりに重点をおいた取組がなされたものと評価。	継続的経費について適切な維持管理を望む。	危機管理課自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	784	電気使用料 53 設備保守点検委託料 261 機器備上料 470	防犯カメラの維持管理を行う。	平成30年度は平成30年1月に3台設置して、それまでは14台を設置していたが、合計17台となった。	設置台数も増えてきて地域として安心感が增大してきている。	地域住民や車の運転者、小学校のPTAなどから防犯カメラを設置して安心できるという意見を多く聞く。	カメラの台数が増えて担当課も維持管理、警察対応が大変だと思いがよましくお願いたします。		またコミュニティ活性化のための各種事業も展開されたものと認識するが、透明性及び公平性の担保には留意願いたい。		危機管理課自治振興費
緊急通報装置管理事業	1	電気使用料 1	緊急通報装置の電気代を賄う。	小学校、中学校の主要な通学路で人の通りも少なく犯罪行為があっても分かり難かった。	設置場所付近における犯罪、事故等はない。	設置効果はある。		いたずらによる警報音により、近隣への迷惑がたまに生じることがある。			危機管理課自治振興費
地域掲示板設置事業	254	修繕料 254	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置し、地域団体と共に使用出来るようにする。	11台の掲示板を設置していた。	新規設置分は大阪府住宅供給公社敷地を借用して設置した。	T字路で見通しもよく、通行の障害にならず、多くの住民に情報の提供ができるようになった。	掲示物の数が増えて掲示板が満杯の状況が続くことが多くなった。掲示物の更新が適宜行われているか管理する必要がある。				地域分権・協働課自治振興費
AED管理事業	19	消耗品費 19	地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。	使用期限が切れる消耗品の更新を行う。	五月丘会館とセブンイレブンに設置分の更新を行う。	設置場所が人の集まりが多いところで、安心感がある。	今後、地域での設置を考えると、利用状況から台数の拡大は避ける方が良い。				健康増進課保健衛生総務費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	地域のスポーツ振興会等が独自で地域の秋の運動会を開催していた。	五月丘フェスタ、グランドゴルフ大会の協力など団体間の連携が緊密になった。	地域にとって協賛団体が増え、事業に参加する人数も多くなり盛り上がりがあった。推進協議会のPRにも一役買ってくれた。	もっと面白い企画と、もっと大勢の参加者にきてもらいその中で地域コミュニティ推進協議会の協賛のカラーを出すことができればと思います。				生涯学習推進課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	236	補助金 236	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域コミュニティ推進協議会の地域住民に対する認識や活動内容等の理解を得るため継続事業として、全戸配布をしている。	年/2回、21回の発行に及び地域住民に活動報告、催物のPR、アンケート調査等を行う。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容の充実と長年の発行実績により、地域の皆様の認知度は確実に向上している。	活動内容が広く紹介されているか、紙面デザイン、レイアウト内容が適切か、広く意見を聞くことも考える。				秘書・広報課自治振興費
地域防災訓練強化事業	280	補助金 280	防災意識向上のため、ポスターの製作と自主防災組織または属さない人も一緒に、防災訓練や勉強会を実施する。	五月丘1丁目、アルビス五月丘、五月丘5丁目の自治会が中心になって地域防災訓練を行っていた。	自治会の無い地域の住民、マンションの住民、自治会に加入していない住民を推進協議会が統一して他の自治会と共同して訓練を行い、防災センターの見学を行った。	推進協議会として訓練や、見学会に参加して自助、共助の大切さを分かっていた。	五月丘地区においては自治会の無い住民、自治会に属さない住民、マンションの入居者について、地域推進協議会が包括して支援する必要があるので、より実践的な構想、訓練、見学会が必要と思われる。				危機管理課自治振興費
地域防災体制強化等事業	301	補助金 301	万が一の事態に備え、防災備品を備蓄する。	自治会組織のない地域、自治会に加入していない住民の防災用のチョッキ、キャップの数が充足していかなかった。	女性用トイレも2台になり、チョッキ、キャップも推進協議会独自のものが一定数揃った。	防災訓練で各自治会と一緒に参加しては従来は私腹か借り物で参加していたが推進協議会として参加できるので志気は高い。	今後参加者が増える見込みで、増加数も見ていく必要がある。装備品の維持管理をはかる必要がある。				危機管理課自治振興費
地域安全パトロール事業	72	補助金 72	地域内の犯罪、事故防止のため、声かけ運動の一環としてネックストラップをつけることで啓発を図る。	地域全体の安心・安全を明示するネックストラップが不足していた。	推進協議会の会員を始め、犬の散歩をする人、早朝体操会の人、ジョギングをする人等が付けてくれた。	声かけ運動の一環としても効果があり、つけている人同士のあいさつや、会釈をするようになった。	渋谷中学校、五月丘小学校で挨拶することが奨励されているので地域でもネックストラップを増やして、時間をかけて声かけを広めたい。				危機管理課自治振興費
コミュニティサロン設置事業	213	補助金 213	地域の人々に情報交換や交流の活動場所としてコミュニティサロンを2月2回設置する。	地域の人が集い、楽しめる場所がなかった。	地域住民の交流を図る場所と地域推進協議会の認知度向上を企図して、カフェを2回/月開催を行う。回数を重ねることにより内容の充実が図られて、高齢者、親子づれの参加者が多くなってきた。	カフェを運営するボランティアの皆さんのご苦労もあり、イベントの出演者、地域の皆さんの協力を得て、交流の場として定着した。	イベントの皆さんに参加をいただけたこと、イベントの増員を検討していく。				地域分権・協働課自治振興費
盆踊り大会支援事業	230	補助金 230	地域団体が実施する、盆踊り大会の運営を支援する。	継続して実施している、当地域では夏の定番となっている。	天候にも恵まれ、盛況であった。	協賛して交流し、地域推進協議会として地域の他の団体に対して、また他の地域の団体に対しても得るところがあったと思われる。	備品、用具等で老朽化したものがみうけられ、これらの更新を図る必要がある。				空港・観光課自治振興費
五月丘フェスタ開催事業	350	補助金 350	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流、ふれあいの場としてフェスタを開催し、慣例行事として定着させ	盆踊り大会、市民運動会以外にも老若男女がふれあえる場を必要としていた。	準備段階、当日のイベント、小・中学校関係者、地元自治会、各種団体の皆さん、出演者の皆さん、運営に携わった皆さん全員が一致協力してやり切った。	年々来場者数も増えて、地域の人たちが一体となって、達成感味わうことができたことは意義がある。	イベントの選定、管理、運営等ノウハウを積んだつもりでもまだ改善の余地がある。課題に反して地域にとってどうあるべきか考えていく必要がある。				空港・観光課自治振興費
カルチャースクール開催事業	100	補助金 100	文化的な住民のふれあい・交流の場としてカルチャースクールを開催する。	生活に直結した、高齢者支援、子育ての支援、防犯・防災に関連する事項等、文化的な催物がなかった。	赤ちゃん教室を開催した。	老若男女、他の地域の人人も参加して盛況だった。	予定していたイベントが先方の都合で開催できなかったため、引き続き開催できるように、地域の皆さんが参加できるようにしていきたい。				人権・文化国際課自治振興費
花プロジェクト事業	150	補助金 150	小・中学校関係者とともに協働で地域の人々が花を育て、花を通じて人々の心を豊かにする。	大阪府の緑化事業で小学校3年生の授業の一環として、取り上げられていたものを当コミュニティ推進協議会が引き継いだ。	府池田土木事務所、池田市教育委員会、五月丘小学校教職員、PTA、児童、渋谷中学校教職員、生徒、地域の皆さん等により補填みして、育成、開花させる。	校長先生、教頭先生の熱心な水遣り等で夏休みの間も花の大部分は緑せずに開花する。その花を見て子どもたちはきれいと感じ、緑の大切さを知る。	6月と10月に補え込みを行うが小学校の授業の一環として、中学校のクラブ活動の一環としてだけでなく公共性のある場所にも広げて、地域全体の環境改善に役立てたい。				公園みどり課自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

高齢者の居場所づくり事業	155	補助金	155	<p>独居老人の安否確認、認知症等の予防、高齢者が生きがいを持って生活できるよう支援する場を提供する。</p>	<p>高齢者特に男性の閉じこもり、認知症予防、安否確認が出来て、おしゃべりや気の向いたことが出来る場所がなかった。</p>	<p>男女が半々ぐらい出席をされて麻雀、トランプ、ぬり絵、囲碁やおしゃべりと思いの事をされている。</p>	<p>地区福祉委員会、民生児童委員の協賛を得て、協議会で不明な点があれば協賛の皆さんの応援を得ることができ、地域が一体となって開催できる。</p>	<p>地域の皆さんが気楽に来てもらえるように、敷居が高いと思われないように、気軽に楽しんでいただける雰囲気づくりに努めていきたい。</p>	<p>参加者が多く、高齢者の閉じこもり防止に役立っている。他団体との協力でスタッフ確保に努められている。より多くの人が関わり、地域に根付いた事業となることを期待している。</p>	<p>高齢・福祉総務課 自治振興費</p>
キッズランド支援事業	30	補助金	30	<p>五月丘小学校で行われている「キッズランド」で使用する備品を購入し、充実したキッズランド活動を支援する。</p>	<p>一輪車に乗りたくても乗れなかった。3台で順番待ちの時間が長かった。</p>	<p>多くの児童が一輪車を楽しむことが出来るようになった。</p>	<p>平衡感覚の涵養に役立った。それとチャレンジする勇氣も養った。1人平均20～30分の待ち時間が半分になった。</p>	<p>当地域は殆どの道路が坂になっているので一般道で一輪車に乗ることは安全の面からは不適當で校庭専用と考える。台数をもう少し増やしたいが、保管場所の問題がある。</p>	<p>一輪車を購入することで順番待ちの時間が解消され、子どもたちの活動が充実したものとなった。有効な事業として評価できる。</p>	<p>教育センター 自治振興費</p>
イベント運営事業	150	補助金	150	<p>地域交流や地域活性などに重点を置き、地域住民参加のイベントを行う。</p>	<p>五月山ハイキング、グランドゴルフ、里山教室は恒例行事化した。卓球教室を新しく支援事業に加えた。</p>	<p>グランドゴルフ大会を年2回開催した。回を重ねる毎に集まってくれる人数が増えてきて、老若男女、子供たちも参加するようになった。</p>	<p>地域の隅々から参加者があり推進協議会のPRに役立っている。日頃、顔を合わさない人が自治会や管理組合を超えて歓談できている。</p>	<p>老若男女を問わず交流の場を増やして、他の地域団体と共同して開催を図ることも必要だと思ふ。</p>	<p>様々なイベントを通じて、地域住民同士の交流を深めることができた。</p>	<p>生涯学習推進課 自治振興費</p>
計	3,946			<p>事業提案限度額 12,435千円</p>	<p>次年度繰越金額 8,489千円</p>					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

鉢塚・緑丘地区コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課自治振興費
防犯カメラ新規設置事業	430	電気使用料 14 機器借上料 416	安全で安心な暮らしの実現に向け、街頭犯罪抑止のさらなる減少を図るため、防犯カメラを設置する。	防犯について住民から不安の声があがっていた。	安心への一助となったと思われる。	住民に安心していただける。	防犯カメラに安心することなく、防犯に留意する。	各部会でまとめられたものを役員会で決定する。	地域の現状に応じてイベントの形を変えたりするなど、工夫しながら活動いただいているものと認識。 一方、各事業の今後の課題として多く挙げられているとおり、人材不足は協議会としての課題でもあり、協議会のPRを続けながら、体制強化を図られるよう期待する。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課自治振興費
菖蒲まつりサイクルポート試乗会事業	1,250	委託料 1,250	水月公園に多くの人が訪れていたように、そして来訪する親子のふれあいを豊かにするよう、菖蒲まつり開催時、二尾池に足漕ぎポート二艘を運営する。	菖蒲祭りで二尾池を活用していなかった。	菖蒲祭りの上の会場が大いに賑わった。	小さな子供を連れた家族がたくさん集まった。	金額面、二尾池の水量など問題は多い。			菖蒲まつりについての初めの試みであるスワン型ポートの試乗会ということで、会場は賑わっていたが、常設となると特別感がなくなり、価値が下がる。事業の運営委託料として125万円が発生しているが、費用対効果に見合っていない。	公園みどり課公園費
緑丘小学校金管バンド支援事業	767	校用器具費 767	緑丘小学校の金管バンドの楽器更新を支援し、子どもたちの意欲向上を促し、地域と小学校の交流を促進する。	修理不能な楽器を無理やり使っていた。	子供たちの演奏力が向上した。	子供たちの演奏力が向上した。	まだまだ故障している楽器がある。			使用可能な楽器の一層の充実により、生徒の演奏技術の向上に繋がった。	総務・学務課学校管理費
市民レクリエーション大会事業	250	行事報償金 250	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。地域コミュニティ意識の高揚に努める。	スポーツ振興会がになっていた。	地域コミュニティが参加した。	スポーツ振興会が担っていたいろいろなことコミュニティも行うようになった。	人材不足			地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	200	補助金 200	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域に必要な情報が手に入らない。	地域に必要な情報を地域の人間が発信する。	地域に必要な情報を地域の人間が発信する。	人材不足。			人手が不足する中、今後の進め方について、課題を明確にして課題解決に努めてほしい。	秘書・広報課自治振興費
地域防災体制強化等事業	150	補助金 150	自主防災組織の体制強化を図るため、備蓄品の充実を図る。また、防災訓練を関係各所の協力のもと実施する。	地域全体に呼びかける防災訓練がなかった。	地域全体に呼びかける防災訓練ができた。	地域全体に呼びかける防災訓練ができた。	人材不足			防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。	危機管理課自治振興費
地域イベント開催事業	520	補助金 520	花菖蒲まつりで移動動物園と野だての会を開催し、来園者に楽しんでいただく。	自分たちだけでなく、地域の友達と共に共通体験をして地域の活性化につなげたい。	子供たち、保護者、地域のお年寄りの交流の場となった。	子供たち、保護者、地域のお年寄りの交流の場となった。	スタッフの高齢化、次代を担う人材の育成。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
オータムフェスティバル開催事業	250	補助金 250	緑丘小学校において校区全体の交流を目的としたフェスティバルを開催する。	校区全体が対象となる交流イベントがなかった。	子供たち、保護者、地域住民の広い人達に秋の一日を楽しんでいただけた。	小学生や未就学児の家族が多数来場した。	店舗の数を増やさなければならない。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
地域イベント備品整備事業	985	補助金 985	地域で開催されるイベント等に使用する備品を整備し、地域の活性化を図る。	テントなど地域で行われるイベントに貸し出される機器がなかった。	机や照明器具などを購入し誰でも手軽にイベントを開催する事ができる。	机や照明器具などを購入し誰でも手軽にイベントを開催する事ができる。	椅子、机が足りない。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費
鉢塚・緑丘地区花いっぱい運動支援事業	10	補助金 10	渋谷中学校から届けていただく花を地域の公園や学校に植え、花いっぱい運動の支援を行う。	公園に植える花を住民の方々にご寄付いただいていた。	公園の花の手入れをしていただいていたボランティアの方々にご依頼することができた。	公園の花の手入れをしていただいていたボランティアの方々に花をお渡しすることができた。	公園の植物の維持管理。			公園の緑化ボランティアの活動の推進に効果をあげている。	公園みどり課自治振興費
健康啓発講座開催事業	100	補助金 100	増加する認知症患者に対する正しい知識と対処法、予防法等を啓発するための講座を開催する。	認知症に必要な情報が手に入らない。	認知症に必要な情報を伝えるため、地域の人間が啓発講座を開催する。	認知症に必要な情報を伝えるため、地域の人間が啓発講座を開催する。	講座の内容。			平成29年度に引き続き、認知症予防講座を開催されたことで、地域の認知症に関する市民啓発に一定の効果が見られた様子。	地域支援課自治振興費
子ども居場所づくり事業	150	補助金 150	子どもたちが地域の大人や友達と、一緒に遊びや勉強等をする場を提供することで、子どもたちの居場所をつくる。	子供会に入っていない子供たちの遊び場、異学年の交流の場がなかった。	子供会に入っていない子供たちの遊び場、異学年の交流の場ができた。	子供会に入っていない子供たちの遊び場、異学年の交流の場ができた。	人材不足			休日地域住民と子どもが交流できる居場所を提供することで、地域の異世代交流が深まることも、保護者への子育て支援にもつながっていることと評価。魅力的な企画による居場所の充実とともに、地域の人的資源の発掘に期待している。	子育て支援課自治振興費

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

緑丘小学校イルミネーション支援事業	60	補助金	60	イルミネーションコンサート時に使用するツリーライトのLED化を支援する。	緑丘小学校の多くのイルミネーションが白熱球である。	少しずつLEDに置き換わっている。	少しずつLEDに置き換わっている。	全球LED化。	イルミネーションコンサートは20回目の実施。美しいイルミネーションとコンサートは多くの人々を魅了し、しふたに学園地域コミュニティのつながりを深める一助となっている。LED電球化を計画的に進めていく必要がある。	教育政策課 自治振興費
オペラ鑑賞会開催事業	600	補助金	600	わかりやすい日本語によるプロのオペラを鑑賞し、親と子、地域住民との交流を図る。	本当の音楽劇を鑑賞する機会が少なかった。	子供たち、保護者、地域住民の広い人達に本当の音楽劇を鑑賞してもらえた。	子供たち、保護者、地域住民の広い人達に本当の音楽劇を鑑賞してもらえた。	学校との連携。地域住民への周知。	親子で楽しめる行事として、地域住民のふれあいの場を提供することができた。	生涯学習推進課 自治振興費
ふれあい講習会開催事業	930	補助金	930	異座観察会を通じて親と子のふれあいの場を提供する。子どもたちに、本格的な音楽に接する機会をつくるためのイベント「音楽の宝石箱」を開催する。	自分たちだけでなく、地域の人達と共に共通体験をして地域の活性化につなげたい。	子供たち、保護者、地域のお年寄りの交流の場となった。	子供たち、保護者、地域のお年寄りの交流の場となった。	人材不足のため落語会のみ継続。	継続できない事業があるのは残念だが、親子で楽しめる行事として、地域住民のふれあいの場を提供することができた。	生涯学習推進課 自治振興費
計	6,752			事業提案限度額	9,430千円	次年度繰越金額	2,678千円			

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

神田地域コミュニティ推進協議会

事業名	予算額(千円)	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目(目)
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100	協議会の運営上必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。								地域分権・協働課 自治振興費
防犯カメラ維持管理事業	43	電気使用料 14 設備保守点検委託料 29	事故や犯罪を未然に防ぐ為の防犯カメラが正しく機能するよう、保守点検等の維持管理を行う。	29年度に神田消防団近辺、麻線の中国道下の地下道に防犯カメラを2台設置合計3台の維持管理が必要。	3台のカメラについては、30年度も保守点検等の維持管理(電気料含む)費用が発生。	防犯カメラの映像がキチンとみれるようになった。事故抑止効果が期待できる。	事故抑止効果をさらに高めるため、「防犯カメラ作動中」看板を大きくすることが必要。(ドライバーからもよく見えるように)	各部会からの報告を受け、役員会でまとめられたものを総会で決定する。	神田会館の遊具設備の改修に比重をおいて提案いただいた結果、大きな改修が実現したものと評価。その分、中長期的な計画を持って、提案にあたっては地域内のバランスや公平性の担保に留意いただきたい。	継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。	危機管理課 自治振興費
地域内会館設備改修事業	5,542	修繕料 5,542	神田会館の老朽化した遊具を撤去、新たに幼児向けの遊具を整備し、安全性・利便性の向上を図る。	神田会館の庭に設置された遊具が老朽化、子供が使えなくなっている。	老朽化した遊具を除去、跡地の整備をして新たに幼児向けの遊具を設置した。	幼児を連れたい親子連れの利用が増加している。	夏場における遊具のやけど対策が必要。			会館の利便性が向上した。積極的にご利用いただきたい。	地域分権・協働課 共同利用施設管理費
道路安全対策事業	124	修繕料 124	歩行者の安全の確保するため、見通しの悪い交差点にコープミラーを設置する。	神田1丁目19-9 リビエールハイツ北西のY字道路の角にコープミラーが無く、歩行者・車とも出会い頭の事故の危険性があった。	コープミラーが設置された。	歩行者・車ともに安全性が確保できた。	他にも同様な危険場所がないか点検が必要。			交通安全性の向上に一定の効果があったと評価する。	道路・河川課 交通対策費
街路灯強化事業	45	電気使用料 45	夜間の事故や犯罪を未然に防ぐため、街路灯の設置及び維持管理を行う。	街路灯不足・照度不足が多く指摘されている。(放火事件発生を受けた自主防災会・消防団による夜間パトロールで指摘)	20年度に町会・自治会から要望のあったものを中心に、街路灯新設・照度アップを実施。校区内の夜間が明るくなった。維持費も発生。	校区内の夜間が明るくなったことにより、放火等への牽制効果が出ていると思われる。	町会・自治会組織の無い地域の街路灯強化が必要。継続して街路灯設置要望を受け付けるようPRも必要。農地隣接の場所等に設置する場合は、高さ・向き等の調整が必要。私有地に設置の場合地主の承諾書が必要となったが、地主ごとように調査するか検討が必要。			街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課 交通対策費
神田小学校開放委員会支援事業	384	校用器具費 384	神田小学校の体育館のバレーボール器具の支援をし、地域内の人々と子どもたちが安全で使いやすい備品を使用できるようにする。	神田小学校体育館のバレーボール用支柱・ネットが老朽化、活動に支障がある。	新たにバレーボール用支柱・ネットを設置。	地域内の人々と子供たちが安全で使いやすい備品を使用できるようになった。	開放委員会の他の用具の点検も必要。			老朽化した備品を再整備することにより安全に体育活動を行うことが可能となった。	総務・学務課 学校管理費
市民レクリエーション大会事業	200	行事報償金 200	地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。	神田小学校区住民運動会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、予算不足を益譲り収益等でカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。	毎年、助成必要金額の検証が必要。			地域スポーツの振興、地域住民のスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。	生涯学習推進課 社会体育振興費
地域コミュニティ紙等発行事業	533	補助金 533	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	事務費予算の範囲内で年1回発行。(白黒印刷)	カラー刷りの広報紙を、年3回地域内全戸配布できた。(22年度以降継続)	各種地域内団体の活動紹介をとりあげることができ、回数もふえたので地域への活動内容のPRができた。	新規協議会メンバー・安全パトロールボランティアを継続して広報紙で募集を続けることが必要。ワンルームマンション増加への対応が必要。世帯数増加への対応は常時検討必要。広報紙への広告掲載もけいぞくして募集することが必要。			情報量が多いだけに、余白や画像をうまく使うより読みやすくなりそう。課題意識も明確で、広報活動に積極的な様子が伺える。さらなる質の向上に期待。	秘書・広報課 自治振興費
安全パトロール実施事業	70	補助金 70	地域の安全・安心の向上のため、パトロール隊が電動自転車で行う。	PTAによる登校時の見守り活動は通学路を中心に実施されていたが、下校時を含めた校区全体の安全パトロール体制がなかった。	電動自転車による安全パトロール体制ができ、ボランティアを中心に下校時の校区内安全パトロールが実施された。(平成21年1月以降)H20年度からパトロールを開始することになった。	安全パトロールによる直接の目につく効果はないが、地域住民に少づつパトロール実施が認識されてきて、防犯意識の向上に役立っている。また、PRのためパトロール中の肩掛し俵も効果をあげている。	ボランティア人員の確保・増員が必要。電動用バッテリーの交換が無理とことなで新規自転車を購入する必要あり。			今後もパトロール活動の強化に努めていただきたい。	危機管理課 自治振興費
神田地域コミュニティ広報事業	871	補助金 871	神田地域コミュニティ推進協議会の活動内容や他団体、神田の行事・歴史、文化をカレンダーにし、地域のコミュニティ意識の高揚を図る。	年3回の広報誌が唯一の広報手段であった。	神田地域コミュニティの活動内容や、神田の自然・行事・文化等の写真を使ったカレンダーを作成し、全戸配布した。30年度も継続実施した。広告掲載も昨年より増加し4件となった。	神田地域内の写真等を通して、神田地域のコミュニティ意識の高揚がはかれた。	地域行事・自然等の写真を広く地域住民に公募し、コミュニティ意識の更なる高揚を図ることの検討が必要。			コミュニティ意識の醸成及び協議会のPRに寄与しているものと認識。さらなる内容の工夫に期待する。	地域分権・協働課 自治振興費
地域内会館備品運営事業	291	補助金 291	神田会館に整備した備品の運用を行う。	パソコン・コピー機等が不備。(個人の機器の使用・コンビニでのコピー)	ノートパソコン・複写機をリース、書類・パソコン等の保管庫も購入。	個人の機器の使用もせずすみ、協議会用書類も安くコピーできるようになった。	専用の事務室の設置、併せてファックス用の電話設置が必要。コピー機も他団体が利用できるように検討が必要。			運用基準を設けるなど、適切な管理をお願いするところ。	地域分権・協働課 自治振興費
神田フェスタ開催事業	150	補助金 150	盆踊り、市民レクリエーションに次ぐ地域住民の交流・ふれあいの場として、フェスタを開催し、恒例行事として定着させ	地域住民の交流・ふれあいの場としては、年1回の盆踊り・運動会のみであった。	30年度も年3回の神田フェスタを開催した。	回を追うごとに参加者も多くなり、次回への期待の声が多くなってきた。	参加者の増加・高齢者が多いということで開催場所の設定がむづかしくなってきた。(神田地区中心部にある民間設備の利用も検討)			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
地域行事等活動促進事業	200	補助金 200	地域で開催される盆踊り等の行事を支援し、コミュニティ意識の高揚を図る。	神田小学校区盆踊り大会が、地域の寄付・市からの定額支援で実施されており、出店等の収益で予算不足をカバーしていた。	市からの定額支援より多くの金額の支援ができた。	地域行事の活性化が図れた。30年度は天候にも恵まれ2日とも実施できた。	令和元年度から行事報奨金への変更した。今後も継続して支援金額の検討が必要。			事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課 自治振興費
神田地域花いっぱい運動支援事業	60	補助金 60	地域内の公園に花壇を設置し、地域ボランティアにて維持管理を行いながら、緑化の推進を図る。	地域内の公園には花が少なく、手入れも不十分であった。	公園3か所に花壇を設置、定期的に花の入れ替え・水やり等ができるようになった。(神田花の会メンバーが対応)	常にきれいな花がみれるようになって利用者から好評を博している。	他の公園花壇など必要な場所がないか検討が必要。			地域が協働して花壇整備を進めていくことで、地域緑化に貢献している。	公園みどり課 自治振興費
キッズランド支援事業	150	補助金 150	子どもパソコン学習教室を小学校・キッズランドと連携して開設し、パソコン操作等の指導を行う。	キッズランドのパソコン教室用備品が不足し、十分な活動ができなかった。	パソコン教室として必要なトナー、用紙類を支援することにした。	パソコン教室事業の充実及び参加者の増加が図れた。	毎年、備品購入必要金額の検証が必要。			キッズランドのパソコン教室に必要な消耗品を整備することで、子どもたちの活動の充実につながった。有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
計	8,763		事業提案限度額 12,996千円	次年度繰越金額 4,233千円							

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）		事業名		予算額（千円）	説明	概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課科目（目）	
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金	100		協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への普及及び周知に係る事務費。									地域分権・協働課自治振興費	
地域掲示板設置事業	240	修繕料	240		地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に知らせるため、掲示板を設置する。	地域コミュニティ推進協議会の活動内容を地域住民に周知するための掲示板が必要であった。	協議会で作成したコミュニティ誌などを掲示し、協議会の活動内容を周知することができた。	協議会の活動内容の周知とコミュニティ意識の高揚。	掲示内容の充実が必要。	各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。	本年度もNP0との協議のもと、地域に根ざした各種事業を展開されており評価するところであるが、その補助金の執行にかかる手順については、問題点を指摘する声もあり、協議会として説明責任をしっかりと果たせるよう、十分にNP0と連携のうえでの事業実施が必須である。	地域の広報に寄与しているもの。適切な管理をお願いするとこころ。	地域分権・協働課自治振興費		
細河祭り運営事業	150	負担金	150		地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため地域住民が細河祭り運営事業を総合的に行う。	地域内のコミュニケーションをより充実させるために、まったり運営を支える必要がある。	台風接近の為中止とした。	祭り準備がすべて完了したうえで中止となったため、大変残念な結果となった。住民からも開催してほしいとの声が多かった。	小学校の鹿枝に伴い地域での行事継続の取り組み方。				事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課観光費	
街路灯強化事業	35	電気使用料	35		細河地区の防犯灯が設置されていない地域に設置した蛍光灯の維持管理を行う。	街路灯の維持管理を継続し、防犯に努める必要がある。	防犯灯がない地域にLED街路灯を継続して利用できた。	夜道の防犯対策に寄与している。LED電球は経済的であり、細河の植木植栽類にやさしい。	地域住民に対する調整。				街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課自治振興費	
地域コミュニティ紙等発行事業	355	補助金	355		地域コミュニティ推進協議会の活動内容を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。	地域住民がどんな事業を実施しているかわからないため、活動を知りたて、関心を高める必要があった。	年2回（7月、1月）発行。部会年の事業報告や親水公園、グラウンドゴルフ場、イベント案内・防犯情報など、分かりやすく発信し、地域に関心を持って頂けた。	地域コミュニティ活動の認識や防災の意識を高めている。また、イベントの集客に寄与した。	より充実した内容にするため、マンネリ化を防ぎ新委員の募集をしていく。地域の方が何を考えているのか投稿コーナーを充実させていきたい。				写真や地域性の高い記事など内容が充実しており、読み応えがあると評価。今後も投稿コーナーなど、改善して行ってほしい。	秘書・広報課自治振興費	
細河ホームページ管理事業	219	補助金	219		細河の魅力や細河地区の取り組み状況をHPを通じ発信、HPの更新を行う。	池田市内、近隣市、国内、国外では細河の知名度はほとんどなく知名度を上げる目的・手段としてHPを開発し公開した。	毎月2回（年間）広報部員にてHP更新作業を行い出来る限り、地域の新鮮な情報の発信を行っている。	内外から事業・行事などHPを見て細河に訪れる人が増えてきている。	よりタイムリーに情報の発信を行いたい。				今後のさらなる活用を期待。	秘書・広報課自治振興費	
細河ふれあい観光推進事業	200	補助金	200		細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、細河PRイベントを行う。	ほそかわフェアというイベントを平成23年度より継続して開催している。細河の魅力を再発見し地域の活性化を促すとともに、地元特産物をつくり、細河をPRするように計画した。	しいたげ園入れや野菜収穫体験を通して細河の魅力を伝えることができた。学校給食に大根・人参を出荷し細河野菜のPR、ブランド化に努めた。給食では、子どもたちに好評であった。又今年度も多くの子供たちに大根を1本づつ持って帰ってもらった。	関西大学の学生の企画で推進する。細河の魅力再発見、地域の活性化につながる行事である。	いろいろな角度から細河の活性化につながる企画を考えた。実施できるよう若者や地域との協力関係の充実。学校給食の出荷にあたり、安定した供給体制の整備。				事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
ハイキングマップ印刷事業	63	補助金	63		細河の自然に親しみ、健康増進や地域の活性化を図るためのハイキングマップについて、増刷を行なう。	前回作成したハイキングマップの在庫が無くなった。	ハイキングマップを1,000枚印刷した。コミュニティ協議会事務所に配布している。	ハイキングマップを配布することにより、細河の自然に親しみ、健康増進に寄与することができた。	在庫の管理、マップの掲載内容に変更がないかの確認が必要。				事業提案に基づき、適正に予算執行されている。	空港・観光課自治振興費	
細河の自然を守る事業①	300	補助金	300		新設するピオトープでのホテルの育成事業の実施を行う。	ピオトープの整備継続中である。	整備は継続中であるがメダカ等生息の観察ができる。	豊かな自然環境の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	引き続き維持管理を行うため、多額の予算が必要となる。				ピオトープの整備により、自然環境の保全に繋がっているものと認識	環境政策課自治振興費	
細河地域活性化推進事業	1,890	補助金	1,890		細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化と、コミュニティ意識の高揚を図るため、「みどりの郷」観光案内所の運営、散策路管理一連の事業を総合的に行う。	継続事業であり、事務所であるみどりの郷の運営、五月山ハイキングコースの維持管理を行う必要がある。	みどりの郷（火曜日は休館）は朝9時から午後4時30分まで開館している。五月山ハイキングコースの草刈り、危険木の撤去を実施し、ハイキングしやすい環境になった。	みどりの郷への訪問者が多く細河の知名度を高め、地域活性化に貢献。ハイキングコース利用者が多く細河の自然を市民に提供し、地域活性化に寄与した。	事務所詰めのボランティアの募集。				細河の魅力を訪ねる者に対しPRできた。また、来訪者も多く現事業継続の効果が表れてきている。	農政課自治振興費	
コミュニティカフェ整備事業	700	補助金	700		細河みどりの郷にコミュニティカフェを整備し、地域のコミュニティの拠点とする。									事業の計画をよく検討し必要があると考える	農政課自治振興費
細河ふれあい農園事業	150	補助金	150		細河の遊休地を活用し市民に開放することにより、細河地域の活性化を図るとともに、農作物を通じた世代間の交流を促進し、また、市民が土に触れる喜びや癒しの場を提供する。	農園の草刈などの維持管理が必要である。また、新規農園の拡大を検討している。	畑に植えである植木を活用し自然の中でオーナーによる果樹の摘み取りをする。また、新規農園を整備し、拡大できた。	遊休農地の活用により地域の活性化を図れる。自然の中で植木や果樹との触れあう機会や地域外の人との交流が図れる。	トイレ、駐車場等利用者のマナーの向上。植木や果樹の剪定講座等勉強会の充実。				農作業を実際に行うことで、農業の大変さ、収穫時の喜びなどが体験でき、農業への関心をもちやすくなった。	農政課自治振興費	
細河の自然を守る事業②	920	補助金	920		里山での竹や剪定枝の炭焼き活動及び剪定枝リサイクルの調査研究を行う。	里山保全活動を継続しているが、効率よく作業をできないか検討した。	里山保全活動では軽トラックをリースし、開伐した木材を運搬し、しいたげの原木と炭、薪に利用している。	豊かな自然環境と竹林や雑木林の間伐による里山の保全を行い、地域の環境整備に効果あり。	保全エリアが広いので会員以外のボランティア募集方法の検討。多額の予算が必要となる。				ホテルの育成、里山保全を始めとした細河の自然をかけた事業活動に取り組んでおり、今後も期待する。	公園みどり課自治振興費	
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金	25		地域と学校が一線に突進する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を伏見台地区とともにを行う。	継続事業で、伏見台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	継続事業で、伏見台コミュニティと共に子どもたちが育てた花を細河地区に配る。	地域の特別養護老人ホーム等公的施設の美化。	配った花の管理方法の確立。				学校と地域住民が協働することで、地域緑化の推進と学校の環境学習にもなっている。	公園みどり課自治振興費	
細河高齢者等配食サービス事業	2,500	補助金	2,500		配食を必要とする高齢者等に弁当宅配のサービスを引き続き実施する。同時に、訪問、声かけを行い、高齢者の見守りを行う。	継続事業であり、高齢者の声かけや子育て支援を行う。	安価で美味しく好評のため、計画より896食多くなった。	細河地区は高齢化率35%で毎年上がらる中で、見守り、声かけの実践で安心しておいしい弁当を食べてもらっている。子育てが大変な妊婦さんにも提供し、子育て支援をする。	配達業務の人材を探している。希望者が年々増える中、協議会予算の配食に上乗せする事が増し、他の事業に支障をきたす。				平成30年度は1796食を配食。地域で高齢者を見守っていたただ大変重要な事業だと認識している。	高齢・福祉総務課自治振興費	
細河コミュニティ道路整備事業	500	補助金	500		伏見台地区と協働して地域間を結ぶ散策道の整備を行い、市民の健康増進を図るとともに隣接する地域間の交流を図る。	継続している事業で舗装工事、街路灯設置工事が完了したが、秋ごろから夕刻の時間帯通行するの音がうるさい危険が伴う。	散策する人により伏見台と細河の交流が進む。照明が設置され、夜間も安全に通行出来る様になった。	細河・伏見町と伏見台をつなぐ貴重な通路である。交通事故による公道通行止めのとどき、路として利用できる。	利用者が幅広い年齢層になり、夜間照明、転落防止柵の設置出入り口への警備員の配置等も必要となる。				道路整備により、より安全で安心な散策道が確保されたと考えられる。	道路・河川課自治振興費	
細河コミュニティ道路維持管理事業	69	補助金	69		細河の自然環境や地場産業等を活用し、地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るため、コミュニティ道路の維持管理を行う。	設置した街路灯の電気代の支払いが必要である。また、雑草や枯葉等で滑りやすくなり、安全に通行出来るようになり危険である	電気代を支払った。また、急な箇所も滑ることがなくなり、安全に通行出来るようになった。	散策する人が安全に通行出来る様になった。	維持管理が年々負担に成りつつあるので、事業が負担なく出来るよう検討が必要				街路灯の強化により、地域内の夜間交通の安全確保が図られている。	道路・河川課自治振興費	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

細河地域子ども会育成事業	300	補助金	300	校区全体で子ども会の育成を行い、協議会と子ども会が協働して、子どもとのふれあいの場を維持していく。	平成24年度より継続して子ども会活動の支援をしており、子どもが元気に育成する場を提供している。	7月にプール場、11月芋ほり、イチゴ狩り、2月にスケート、子どもの育成に寄与することができた。	地域の子どもや親同士との触れ合いを深める。	細河小学校の廃校に伴い地域子どもとのかかわり。	昨年度と異なる行事を開催することで、子どもたちは、多様な経験を重ね充実した活動へとつながっている。また、活動を通して子どもたちや保護者の交流を深めることができているため、有効な事業として評価できる。	教育センター 自治振興費
グラウンドゴルフ場維持管理事業	110	補助金	110	地域の活性化とコミュニティ意識の高揚を図るために設置したグラウンドゴルフ場の維持管理を行う。	敬老会に運営整備を委託していたが規模が大きく高齢者には十分な整備が出来ていなかった。	業者委託する事でとても綺麗な状態を維持できるようになった。	使用者からも好評である、	利用者の増加の為今後は学校や地域の方々への募集を図りたい。	スポーツを通じた地域住民の交流の場として役立っている。	生涯学習推進課 自治振興費
計	8,826			事業提案限度額 9,218千円	次年度繰越金額 392千円					

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

ほそごう地域コミュニティ推進協議会（伏尾台地区）

事業名	予算額（千円）		概要	実施前の状況	実施後の状況	事業の効果	今後の課題等	協議会における評価方法	市の総合評価	市担当課の評価	所管課
	説明										科目（目）
地域コミュニティ推進協議会事務事業	100	交付金 100									地域分権・協働課 自治振興費
安全パトロール実施事業	400	修繕料 60 自動車重量税 7 補助金 333	協議会の運営に必要な庶務的経費の他、地域住民への啓発及び周知に係る事務費。	<p>実施前は小学校の登校時に、主に民生委員等による見守りがあった。平成20年9月より実施し、当初小学校の登校日を中心に、H20年は、1回1時間、1日6回のパトロールからスタートし、H21年は、1日4回に組み直して実施した。</p> <p>H24年は、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻に応じてスケジュールの見直しを行った。H25年度は、1回1時間、1日2～3回のパトロールを実施した。</p> <p>H26年度は、登校予定日、小学校の曜日毎、学年毎の下校時刻の違いに応じて、より細かくパトロールスケジュールの見直しを行い、月曜日から金曜日の間、1時30分から1時間、15時50分から1時間、19時から1時間1日3回のパトロールを実施した。</p> <p>H27年度以降は、小一貫校のほそごう学園に統合されたことにより、細河地区の中学生、小学生はスクールバスで登下校することになり、主に伏尾台地区の小・中学生の登下校を見守ることになった。</p> <p>朝の登校時に定立立ちを主に行う挨拶運動、下校時に合わせた午後のアナウンスを行う走行によるパトロール、夜間アナウンスが可能な時間帯の走行によるパトロールを継続して行った。</p> <p>H27年10月以降、コミュニティプラザを開設してからは、青パト車の駐車をプラザの南側に設定できたので、隊員のアクセスが良好になった。</p>	<p>巡回スケジュールは、日中は、ほそごう学園の開放日並びに登校・下校時間に合わせで行い、巡回のみならず定立立ちパトロールと挨拶を実施し、また、夜間の巡回を併せて行うように計画した。</p> <p>安全パトロールは、通年、一回当たり1時間これを実施した。</p> <p>巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p>	<p>パトロールを継続して行った結果、空き巣等の防止に繋がりを、防犯カメラ事業との相乗効果もあり、毎年空き巣犯罪"0"を更新できていたが、H27、28年度は侵入盗事件が各1件発生した。</p> <p>また、29年度並びに30年度は不審者情報が多数回寄せられているため、巡回時には、バス通りのみならず、伏尾台の周辺地域ならびに公園を重点的にチェックするように心がけた。</p> <p>朝のパトロールは走行よりも主に定立立ちとし、小中学生を始とする学生、通勤者らにあいさつを積極的に行うことができた。</p> <p>下校時並びに夜間の巡回時には、車載スピーカーを用いた放送により、登校下校時の子供の見守り、戸締まり方法、不審なセーレス、アンケート調査への注意、夜間の不法駐車禁止を呼びかけることができた。</p>	<p>隊員の減少と現隊員からの出勤時間帯の変更の申し出、さらに夕刻以降の乗務希望者が大きく減少することから、運行スケジュール立案が事務担当者の大きな負担である。</p> <p>運行スケジュールの立案とともに、実施者証の更新講習会の開催手配と、新入隊員への受講手配、保険加入申込み、車両の整備、燃料補給などの事務方の処理量が増大している。</p> <p>大造協から提供された青パト車が配備されたが、その頃から隊除の申し入れが多く、隊員補充が進まず、2台のパトロール車体制の構想が実現できていない。</p>	<p>各部会からの報告を受け、役員会でまとめたものを総会で決定する。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザで新たな事業を展開するなど地域拠点化がさらに進んでいると認識。</p> <p>一方で、安定的な運営体制の整備や事務管理の強化等の課題は解消されておらず、拠点運営が過度な負担とならないよう、引き続き協議会体制の強化を図られるよう期待する。</p>	<p>日々の地道な活動の成果により、小学校区でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっていると評価する。</p>	<p>危機管理課 一般管理費/自治振興費</p>
防犯カメラ維持管理事業	198	電気使用料 24 設備保守点検委託料 174	校区に設置した防犯カメラの維持管理を行う。引き続き地域内の犯罪の抑止と住民の安全・安心な生活環境を確保する。	<p>H22年度に伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に通過車両を撮影できる防犯カメラを設置した。</p> <p>H24年度に第2コミセン南側と細河中学校の南側交差点に防犯カメラを設置した。</p> <p>H25年度、北高校の南回路北側の中央付近から西方向に向けて1台、同南回路の南東のT字交差点に東方向に向けて2台の防犯カメラを設置した。</p> <p>H26年度、北高校の南回路北側の中央付近から東方向に向けて1台の防犯カメラを設置し、旧伏小付近を撮影可能にした。伏尾台への出入口道路である国道側と川西側の2か所に設けたカメラ支柱を利用して夜間撮影が強化されたカメラを増設した。</p> <p>14台の防犯カメラの設置によって、地域に出入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となった。また、既設カメラとレコーダーはメンテナンスされた。</p> <p>H28年度、H22年度の4台が市の維持管理下に置かれ、H29年度は、協議会の維持管理下にある防犯カメラは10台となった。</p>	<p>H30年度は、新吉田橋北側の国道に向けてのカメラが撤去されたが、国道交差点に市の無線管理カメラが設置され、また、川西側への出入り口のカメラも市の無線管理カメラに交換されて、地域に出入りする車両並びに歩行者をもれなく撮影し得る状況となり、緊急時の記録の開示要求に応じられる体制となった。</p> <p>また、旧北高周回路の南東のT字交差点に東方向の2台のカメラのうち、東側のカメラが市の無線管理カメラに交換された。事業提案の既設カメラ6台がメンテナンスされた。</p> <p>さらに、声かけやいたずら事案が報告されて設置を危機管理課へ要望していた、中央公園のトイレ付近の防犯カメラが、H30年度に設置された。</p>	<p>警察の捜査にも協力でき、同時実施の安全パトロール事業での青パトロール車の巡回、地域内の防災防犯委員会並びに自治会の防犯活動と相まって、毎年空き巣事件"0"を更新していたが、H27、H28年に侵入盗が各1件発生した。</p> <p>H26、H27年、認知症の方が行方不明になったが、伏尾台から出ていない記録が確認でき、住民で捜索して無事発見できた。</p> <p>H29年度は、例年通りの数回の池田署からの開示要求があり、立会い対応を行なった。</p> <p>H30年度は、池田署からの開示要求に伴う立会いを行っていた防犯カメラが市の管理カメラに交換されたことにより、立会い対応を行う必要がなかった。</p>	<p>必要箇所には防犯カメラが設置されているので、地域内に防犯カメラの増設を行うべき特段の理由はなく、現在は維持管理が主になり、経年変化により故障するカメラが今後増えることへの対応など管理業務を強化する必要がある。</p> <p>特に落雷によるサージ電圧により作動が停止するところがあるが、既設で協議会の管理下にあっては6台はいずれも目視等で確認することができず、年1回のメンテナンスではその後の落雷の影響を確認することができない。</p>	<p>継続的経費について理解の上、適切な維持管理を望む。</p>	<p>危機管理課 自治振興費</p>		

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

<p>地域コミュニティ推進協議会拠点運営事業</p>	<p>2,040</p>	<p>建物借上料 500 補助金 1,540</p>	<p>地域住民への協議会活動及び地域分権のPRを目的として協議会活動拠点を運営を行う。</p>	<p>コミュニティ推進協議会の活動拠点としての西公園事務所は、伏尾台周回道路沿いで西公園側と目立つ場所に看板と掲示板を設置して広報活動を行っている。 また、西公園事務所は、地域の「防災・防犯委員会」の活動拠点として、会議の他、年末の防犯防火の巡回拠点として活用してもらっている。さらに、地域内に季節の花を植える活動を行う地区福祉委員会の「花の会」の活動拠点として利用してもらっている。 平成27年10月3日に伏尾台コミュニティプラザを開設してその中に協議会事務所機能を移して、フリーサロン、子育て支援ルーム、まちの情報センターの運営を行った。このプラザ事務所には光ケーブルを引きこき、フックス複合機を備えて事務所機能を充実させた。 西公園事務所とプラザ内事務所との両方で活動を実施した。西公園事務所は、元来老朽化して床の損傷が進行したため、東側の半分の床の張り替えを行った。 月曜日から金曜日のコマプラの開放日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コマプラの維持管理を行った。 コマプラ内の子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、平成28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,903名、平成29年度は、通年で7,870名で、子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどへは 約5,493名が来訪された。</p>	<p>西公園事務所とプラザ内事務所との両方で協議会活動を実施した。 月曜日から金曜日のコマプラの開放日に、3交代でスタッフが留守番を行い、閉館後にホールとトイレの清掃を行い、コマプラの維持管理を行った。 地域活性化事業のコンサート、落語の開催と事務処理もコマプラ、本事務所で行なった。 平成30年度の伏尾台創生会議2020の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コマプラで行われた。また、夏祭り実行委員会の事務や打ち合わせ、会議なども本事務所、コマプラで行われた。 伏尾台地域に入っていく目立つ立地条件のもと、webでの「グール地図」にも「伏尾台コミュニティ推進協議会」と表示され、そのストリートビューには黄色い看板が目立っていたが、強風の台風で落下寸前となったため、直ちに撤去した。</p>	<p>コミュニティ推進協議会はもとより、防災・防犯委員会並びに地区福祉の花の会の活動拠点として、それぞれ活用されている。 伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,597名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約2,309名であり、フリーサロンなどへは 約5,288名が来訪された。</p>	<p>コマプラのフリーサロンの利用者数は現象傾向にあることから積極的な利用を図りたい。高齢者の居場所づくりを充実させたい。また、子育て支援ルームの利用は年々減少していることは、人口減少もあるが、他の利用者を対象にするなどの問題解決が必要である。社協のファミリーサポート事業の会場として利用するシステムを創設する作業を行っているが、利用者の増加には結びついていない。 プラザ事務所としては、コミュニティプラザがボランティア支援を含む「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、まちの不動態情報、特に空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 コマプラの留守番役のスタッフ、掃除スタッフを現在10名のボランティアでローテーションを組んでいるが、依然として、絶対数が大幅に不足し、募集を行うも応募が全くないことが、運営上切迫した問題である。 平成29～31年度事業検討として、伏尾台の特色ある公園作りを目指しており、西公園の再整備案とともに、西公園事務所には、遊歩道側に独立したトイレが設置されているので、これを整備して遊歩道側に解放することで、散歩中の人や隣接する西公園を訪れる地域の方に利用してもらえようという。</p>	<p>事務所機能の安定的継続のための人員体制の確保は、引き続き急務と考えるところ。 地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>コミュニティサロン設置事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域の人々が立ち寄り、世代を超えた交流の活動場所としてコミュニティサロンを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台には2つのコミュニティセンターがあるが、利用には事前予約が必要であり、散歩の途中に立ち寄り休憩する短、待ち合わせや談笑する短、急い自治会の役員同士が打ち合わせする際など、気軽に利用できる施設がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には名簿に記載をお願いした結果、10月3日より平成28年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,903名、平成29年度は、通年で7,870名で、子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどへは 約5,493名が来訪された。</p>	<p>利用の形態は、日課の散歩の途中で休憩を取る方、待ち合わせや1人の時間を過ごす方、フリーサロンの通う生徒との待ち合わせを行う保護者、趣味の競艇などをグループで行う方、自治会やサークル活動の打ち合わせ、小学校、中学校の宿題をグループで行う生徒、談笑するグループ、読書、読書をする学生、床と絵本を見る高齢者、買い物帰りに商品を仕分ける方、食事をする学生などまさにフリーサロンとして利用されている。 宿題カフェ会場として利用されている。 伏尾台創生会議2020、夏祭り実行委員会の会議、事務等に利用されている。 里山の植物を紹介しているグループの展覧会場として利用された。 ほそごう学園の地域学習の会場として利用されている。 総務省の推進事業で、池田市の伏尾台送迎サービス社会実験の会場として10月から12月に利用され、協議会会員がボランティアとして参加した。 地域交通の未来を考える公開講座の会場として利用された。 高齢者の居場所づくり意見会の会場として利用した。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,597名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約2,309名であり、フリーサロンなどへは5,288名が来訪された。</p>	<p>さらに利用者を増やすために、積極的に地域の住民が主催するイベント、講座、各種教室などの企画にも、一時保育所の運営、高齢者と子どもたちが一緒に夕食を食べる「コマプラキッチン」の運営を行うなどの活動が必要であると考え、令和元年度の実施を予定している。 また、コマプラ自身が「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後はまちの不動態情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。</p>	<p>地域の憩いの場としてコミュニティの醸成に寄与しているものと評価。利用者増に向けて各種事業展開に期待するところ。 地域分権・協働課 自治振興費</p>
<p>まちの情報センター運営事業</p>	<p>600</p>	<p>建物借上料 500 補助金 100</p>	<p>地域のあらゆる情報を提供し、ボランティア活動者に対して情報発信や斡旋を調整、またコンビニ交付サービス端末を設置した。まちの情報センターを伏尾台コミュニティプラザに設置する。</p>	<p>伏尾台にはコミュニティセンターやバス停の掲示板があり、自治会からのお知らせなどが掲示されているが、ボランティアの需要や供給に関する情報収集や提供がなかった。 平成27年10月伏尾台マンションの1階店舗部分を改修し、「伏尾台コミュニティプラザ」を設け、その中に有償、無償のボランティア活動の供給者、需要者に対して、情報の発信収集並びに斡旋、調整を図るためのボランティアセンターを含むまちの情報センターを設置運営した。プラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者には、名簿に記載をお願いしており、10月3日より平成29年3月31日までの実績で3200名を超えた。 平成28年度は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,903名、平成29年度は、通年で7,870名で、子育て支援ルームのみの利用者は、約2,377名であり、フリーサロンなどへは 約5,493名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンの壁を掲示板として活用し、まちの情報、「地域学校行政」「地域環境」「安心安全」「協議会」「コマプラ」「子育て支援」「各支援」「ボランティア活動」のカテゴリーに分けて種々掲示している。各種の活動紹介の依頼やポスターの掲示を頼み出されるなど多くのグループに利用されている。 ほそごう学園、リースクール、地区福祉、社協、池田署、防犯委員会、人権文化交流センター、池田市公益活動促進協議会の広報などを展示している。 市のキオスク端末が設置されて、行政証明書の発行手続き、写真印刷やコピーに住民が利用している。</p>	<p>伏尾台コミュニティプラザ内に設けた子育て支援ルーム、フリーサロン、まちの情報センター、協議会事務所への来訪者は、4月1日より翌年3月31日までの実績で7,597名である。子育て支援ルームのみの利用者は、約2,309名であり、フリーサロンなどへは5,288名が来訪された。</p>	<p>フリーサロンは、日々は子育て支援ルームに訪れる母子、ほそごう学園の生徒が中心に利用されており、山びこフェスタのイベントの際や自治会、伏尾台創生会議、伏尾台夏祭り実行委員会などの会議の際には、伏尾台住民が多く利用されるので、「まちの情報センター」としての機能は十二分に発揮できているので、今後もボランティア活動のみでなく、まちの不動態情報や空き家対策事業などさらに広範囲の情報センターとして機能させたい。 キオスク端末の利用者数が、マイナンバーカードの普及率がまだ低いことから低迷している。</p>	<p>地域の拠点機能の一つとしての情報収集の場として地域の活性化に寄与しているものと認識し、さらなる情報の充実に向けて期待するところ。 地域分権・協働課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

<p>子育て支援環境整備事業</p>	<p>700</p> <p>建物賃上料 500 補助金 200</p>	<p>幼児をもつ母親の子育て環境改善とコミュニケーションの場づくりを行うため、スペースの確保と用品等の拡充を図る。</p>	<p>平成22年度より、伏尾台第1コミュニティセンター内の一室を使用し、幼児向けの備品を整備し、乳幼児を育てる母親に気軽に集まれる場所として提供し、これを運営する子育て支援グループを立ち上げた。その後も毎週、部屋が開設される日時を決めて、無料登録制で参加者を募集する方法で運営している。</p> <p>平成26年度は、会員は67組(134人)、ボランティア会員(12名)で構成され、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて、子育てサロン「フレンズ」を開設した。年間、121組(延べ242人)の利用があった。上記活動の他、七夕とクリスマス時期の年2回、入園前会員宅を訪問して、手作りカードの贈呈、子育ての悩み等の聞き取りを行う活動を、延べ82回(延べ246名)行った。子育てサロン「フレンズ」を卒業した会員による「親子で遊ぶ会」を8月と12月実施し、23組(延46人)の参加があった。</p> <p>平成27年度は、4月から9月は32組、伏尾台第1コミュニティセンターの小会議室を週2回借りて子育てサロン「フレンズ」を開設した。母子99名、スタッフ72名、延べ171名の利用があった。10月3日より、伏尾台コミュニティラザが開設されて、子育て支援ルームにて活動を行う。10月3日から3月末までの半年間では、子育て支援ルームにて、母子1202名、スタッフ241名、延べ1443名の利用があった。</p> <p>平成28年度は、登録会員数は76組、利用者数は母子2,276名・スタッフ393名の延べ2,669名であった。</p> <p>平成29年度は、登録会員数は80組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,377名であった。ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会2回・キッズコンサート・小児科医座談会を開催した。</p>	<p>コミュニティ内子育て支援ルーム登録会員数は90組、利用者数は母子・スタッフの延べ2,309名となり、母子交流の場として定着し、孤独な子育てから親子を守ると言う目的を達成することができている。</p> <p>利用者数は年々減少傾向にあり、伏尾台の人口構成からやむを得ないこともあるが、利用者を増やすために、社協のファミリーサポート事業との連携を進めており、説明会と登録会をそれぞれ2回開催した。</p>	<p>フレンズを中心に、社協子育てサロン、ホップ君、自主サークルひよこと連携しての場となっている効果は大であり、細河地区や、池田市内、里帰り母子の利用も増え、ほそごう地域の親子の絆が深まる効果が出ている。</p> <p>ママの会・卒会員幼稚園児夏休みの集い・AED講習会・ほそごう学園スクールカウンセラーとの交流会を開催し何れも好評を得た。</p> <p>月に二度、伏尾台文庫に依頼しての読み聞かせ会が、本に親しむ機会となり、七夕・クリスマスに手作りカードを持参しての慣例の家庭訪問実施は悩み相談の機会となっている。</p>	<p>幼児や未就園児を対象に子育て支援を行っているが、園児や小学校低学年の子供たちの支援を要望される保護者や家族が多いので、幼稚園児の受け入れを開始したが、乳幼児とは行動・遊具が異なり、乳幼児向け支援室での受け入れは課題が多いため、H30年度半ばから受け入れを中止した。</p> <p>新たな未就園児の親子への広報活動並びに新規登録等の事務処理、さらに就園児となった親子との交流、相談で訪れる母親への支援者が全く足りない。</p>		<p>親子が居心地よく過ごせる場所として地域に定着していると評価。引き続き、本市の子育て支援事業と連携しながら活動を充実させるとともに、地域の人的資源の発掘に期待している。</p>	<p>地域分権・協働課／子育て支援課 自治振興員</p>
<p>AED管理事業</p>	<p>10</p> <p>消耗品費 10</p>	<p>地域内の各会館に設置したAEDについて、定められた消耗品の交換をし、正常に使用できるよう維持管理を行う。</p>	<p>阪急バス車庫事務所、伏尾台センターコープ店舗内に設置した。これまでは使用されることがないが、緊急時に備えてメンテナンスが必要である。平成29年度は伏尾台センターコープ店舗内に設置したAEDにおいて、設置から7年を経過したAED装置本体を交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。</p>	<p>阪急バス車庫の事務所内に設置したAEDにおいて、パッドを交換して、引き続き使用可能な状態を維持した。また、定期的に設置状態の確認を行うことが必要であり、これを実施している。</p>	<p>毎日、午前9時から午後9時まで開店しているコープ店舗内と、24時間常駐されている阪急バス車庫の事務所内に、AEDが使用可能な状態で常備されることになった。</p>	<p>毎年9月に防災防犯委員会の委員で使用訓練を実施し、毎年11月に総合防災訓練で参加者に使用体験を実施しているが、さらに住民向けの使用訓練の機会を設けることが必要である。</p> <p>コープ店舗には住民の多くが訪れ、AEDが利用される可能性が高いが、阪急バス事務所の場合はこの場所まで取りに行くことより救急車を呼ぶ方が効率的であると想定できるため、同事務所内のAED本体の交換時期が到来した場合、その設置を継続しないことを確認した。</p>	<p>コンビニ等にAEDを配置することで、多くの住民の安心感を得ることが出来る。今後も引き続きAED設置・管理講習の受講に努めていきたい。</p>	<p>健康増進課 保健衛生総務費</p>	

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

<p>市民レクリエーション大会事業</p>	<p>200 行事報償金 200</p>	<p>地域のスポーツ振興会等が開催する事業を支援する。スポーツ意識の高揚に努める。</p>	<p>伏尾台校区住民がスポーツに親しみ気軽に参加できる機会を設け、幼児から高齢者まで楽しみ交流を深めて地域の活性化を図る目的で、伏尾台校区市民レクリエーション大会実行委員会を組織し、自治会連合会の協賛のもと、伏尾台大運動会を行ってきた。各自治会の組織率の低下により、自治会からの参加者並びに協賛金も大きく低下している。 主に夏祭りの開催に要する労力が大いなる負担として、組織率の大幅な低下を理由に自治会連合会を解散する自治会が出ることにより、平成26年度末で自治会連合会が解散となった。 これにより平成27年度の自治会連合会による参加者集めができなくなるため、運動会の中止が懸念された。 平成27年度から夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが同年4月に決定されることに伴い、運動会開催に自治会が参画することが決定された。 その後も、毎年4月の年度初めに、伏尾台夏祭り実行委員会と伏尾台スポーツ振興会とが、6地区の自治会と話し合いを行い、自治会が夏祭りと運動会の後援を行うことの意味を確認を行っている。</p>	<p>平成30年度も夏祭りが住民有志による実行委員会形式で開催されることが4月に決定され、自治会の負担が減少することから、運動会開催には、各自治会が参画することが決定された。 自治会協賛金の低下を補う形の補助金として、必要な運営費用を賅うことが可能になった。 毎年、参加者の高齢化と運動量の減量を求める意見を考慮して、午前中心のプログラムに変更した結果、多くの住民が参加して楽しめるスポーツ大会を開催できた。</p>	<p>実行委員会並びに自治会の役員、ボランティアスタッフともに運営が積極的に行われ、又、各自治会の参加者募集の努力がなされ、ここ数年は、参加者数がようやく前年並を維持できる運動会であった。</p>	<p>協議会と本事業の実行委員会とは、本事業についての協議が十分には行われていない。 協議会としては、少子高齢化が急速に加速する伏尾台では、幼児から高齢者までスポーツを楽しむ交流を深めて地域の活性化を図る初期目的に立ち返り、ゲームの要素を取り入れたり、1日1～2時間を四季ごとに行うなど、従前とは異なる別形態の運動会を提案している。また、細河地域で行われている子供中心のミニ運動会の開催も有効であると考えている。</p>		<p>地域スポーツの振興、地域住民へのスポーツ機会の提供、住民同士の交流を図ることができた。</p>	<p>生涯学習推進課 社会体育振興費</p>
<p>地域コミュニティ紙等発行事業</p>	<p>300 補助金 300</p>	<p>地域コミュニティ推進協議会の活動内容等を広く地域住民にPRするため、地域コミュニティ紙を全戸に配布する。</p>	<p>伏尾台では、協議会の広報紙の発行に際し、紙面の作成、印刷、地域全戸配布の全てを、協議会委員のボランティアで実施し、費用は紙代等の実費のみであったが、協議会委員への負担は極めて大きかった。 平成26年度の第12号広報より市の広報紙と共に全戸配布した。さらに、2月末に市の広報紙と共に、平成19年に発足し8年を経過した伏尾台コミュニティ推進協議会の活動の成果を地域の地図を用いて紹介した第13号広報を全戸配布した。 さらに伏尾台地域活性化事業で行う3回の「山びこフェスタ開催案内」ポスター、回覧の広報活動を協議会委員の手配りで実施した。 平成27年9月末に市の広報紙と共に第14号、新設の伏尾台コミュニティプラザの様子を表紙にした広報を全戸配布した。 平成28年2月末に市の広報紙と共に第15号、子育て支援ルームの様子を表紙にした広報を全戸配布した。 平成29年3月に、「伏尾台[子育てにやさしいまち]宣言」の横断幕が設置され、ライトアップ機器が装着された新吉田橋の様子をカラー表紙にした広報紙第16号を伏尾台地区の全戸に配布した。 平成29年8月26日の第43回伏尾台夏祭りの夕方の様子をカラー表紙にし、平成29年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第17号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。 平成30年3月末、平成19年に発足し10年を経過したコミュニティ推進協議会の活動の成果を、青ハトが走る年表の表紙と見開きページの地域地図を用いて紹介し、今後に向けての活動方針と歴代会長のコメントを記載した広報紙第18号を全戸配布した。</p>	<p>平成30年10月7日の第39回伏尾台大運動会の様子をカラー表紙にし、平成30年度の本協議会が行なった実施事業をカラー写真で紹介し、下半期の行事予定を記載した広報紙第19号を同10月に伏尾台地区の全戸に配布した。 平成31年3月末、平成最後の1～3月に開催した創生会議の土曜祭の会場となった旧伏尾台小学校体育館を表紙にし、見開きページに協議会の下半期の活動、平成31年度の提案事業、地域創生プランが創生会議から協議会に引き継がれる旨の報告を記載した広報紙第20号を全戸配布した。</p>	<p>平成29年度から定着した、上半期、下半期の年間2回、カラー版で個別の全戸配布の広報紙とすることで、活動の紹介、協議会入会、アンケート回収や安全パトロール隊員の応募などを広報できた。 特に、平成30年3月末発行の広報紙第18号は、地域分権制度の10年とこれからの活動を紹介した特別号保存版としており、8年間の活動を紹介した第13号と同様に全戸配布以外に約150部を余分に印刷しており、協議会活動の紹介紙として活用できている。</p>	<p>「山びこフェスタ開催案内」のポスター、回覧チラシにより、イベントが盛況に催されたが、委員の負担を減らすため「山びこフェスタ開催案内」をe-mail、ホームページ、SNSなどで広報できるように考えていきたい。</p>		<p>キャッチコピーや表紙イラストなどデザインが秀逸、引き続き住民が居るの待ち遠しくなるような誌面作りを努めてほしい。</p>	<p>秘書・広報課 自治振興費</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

<p>防犯防災啓発事業</p>	<p>200 補助金 200</p>	<p>地域住民の防犯・防災意識を高めるため、体験訓練を行うとともに巡回パトロールを啓発するための用品等を購入する。</p>	<p>伏尾台防災・防犯委員会は、地域の5つの自治会より配分される50円×1200戸以下の予算で運営されている。毎年の総合防災訓練は、参加人数が300名程度で自治会からの配分予算では厳しい状況である。（平成29年度1181戸毎年減少）</p> <p>平成27年度は、第二コミセンの建屋に隣接していた防災備蓄倉庫を敷地内に移設しアクセスし易くした。平成28年度は、8月6日、10月1日に避難所開設運営向上訓練を行い延120名が参加した。8月27日は、防災・防犯委員会が伏尾台夏祭り会場で、延べ37名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。9月23日は、津波・高潮ステーションと大阪市水上消防署の見学に14名が参加した。11月6日は、ほそごう学園にて防災総合訓練が行われ、参加者は300名に達した。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には、延べ95名が参加した。</p> <p>平成29年度は、4月22日防犯教室を開催し30名の参加を得た。6月3日住宅耐震対策研修会を開催し48名の参加があった。7月8日、4箇所防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。</p> <p>8月5日と6日に旧伏小にて防災キャンプを実施し、45名の参加を得た。児童観察会の60名とともに避難所設置を見学した。8月26日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ42名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>10月7日防災訓練役割分担訓練を行い58名の参加を得た。11月5日はほそごう学園にて防災総合訓練が行われ300名の参加を得た。11月25日、高槻京大震災観測所見学会を開催し、16名の参加を得た。12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ105名が参加した。2月3日、災害時に役立つ防災グッズづくり実習会を開催し、39名の参加を得た。</p>	<p>4月21日防犯教室を開催し35名の参加を得た。6月18日大阪北部地震に伴い地域内の安全確認、点検を行った。</p> <p>7月8日、4箇所の防災備蓄倉庫の資機材点検を行った。</p> <p>8月4日に、災害時安全確認対策として災害時声かけ協力員の登録制度を整備して、88人の登録を得た。</p> <p>8月25日は、伏尾台夏祭り会場で本委員が延べ45名にて無線機を使用して交通整理、巡回警備を行い安全に夏祭りが開催された。</p> <p>10月6日に安全確認・避難誘導マニュアル訓練を行い58名の参加を得た。10月19日に普通救命講習受講13名参加。</p> <p>11月4日はほそごう学園にて3年生全員が学校行事参加し防災総合訓練が行われ350名の参加を得た。11月15日、大阪府営本部交通管制センターの見学会を開催し、23名の参加を得た。</p> <p>12月27日、29日、30日の年末特別警戒には延べ110名が参加した。</p> <p>2月2日、大阪府営本部主催の特殊詐欺撲滅特別キャンペーンに参加、18名の参加を得た。</p> <p>3月2日、安否声かけ協力員とともに合同の阪神淡路での声かけ避難誘導・避難所体験講習会を開催し、60名の参加を得た。</p>	<p>特殊詐欺被害が増大しているが、伏尾台でも電話を受けた人の体験談を多く聞くことができ、被害防止の意識が高まった。</p> <p>安全確認・避難誘導マニュアル訓練並びに阪神淡路の際の体験談講演は、非常時の想定を亲身体験でき意識高揚に極めて有効であった。</p> <p>夏祭りでの通行止め区間の4箇所での夜間照明並びに無線連絡と相まって安全に交通整理が実施できた。</p> <p>総合防災訓練での必要経費を補助金で賄うことができ、350名の住民に7項目の訓練を受けて頂いた。</p> <p>交通管制センター見学会、特殊詐欺撲滅キャンペーンでの知見について参加者全員に感想文を書てもらい交通問題や防犯意識が高まった。</p> <p>普段からの声かけや挨拶の習慣が災害時に役に立つことを知ることができた。</p>	<p>総合防災訓練時の引率リーダーの養成のための教育カリキュラムとして、普通救命講習と備蓄資機材の使用訓練を行うこと、見識を深め、意識を高める見学会などの要望があった。</p> <p>防犯、防災委員のみならず、災害時の安否声かけができる体制の確立、近所づきあいを深める活動が必要であるとの意見が多い。</p>	<p>日々の地道な活動の成果により、小学校区でパトロールの認知が高まるなど、犯罪抑止に繋がっていると評価する。今後とも引き続き活動を期待する。</p> <p>また、防災訓練の実施により災害に向けた自助、共助の推進を期待する。</p>	<p>危機管理課 自治振興員</p>
<p>地域行事等活動促進事業</p>	<p>350 補助金 350</p>	<p>地域の夏祭り開催費用の一部を支援する。また行事を通して、住民間の交流拡大に寄与するため、イベント開催の支援を行う。</p>	<p>子供会活動が衰退し、2丁目自治会、北自治会では子供会は大勢いるが、僅例の夏まつりで子供御興の巡行が2丁目だけできなかった。平成25年度に軽量であるが、本御興と同様の外観を有する子供御興を新調することが協議会で決定されて以来、子供会の再編を含めて活動の強化を図る方策が種々取られた。</p> <p>そして40周年記念となる夏祭りが平成26年8月23日に開催され、新調の子供御興が大活躍した。育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、27年度は2丁目と3丁目の子供会が合併して子供会が無かった2丁目北自治会の子供たちが2・3丁目子供会に入会する強化策が取られることになった。</p> <p>第40周年記念の夏祭りを開催するも自治会活動のうち最も負担が大きいことから、平成26年度末をもって自治会連合会が解散となり、平成27年度の夏祭りが自治会主催で行われないことになった。</p> <p>しかし、住民有志による第41回夏祭り実行委員会が立ち上げられ、夏祭りが平成27年8月22日に開催された。また同じメンバーによる第42回夏祭り実行委員会は、平成28年8月27日に夏祭りを開催し、さらに平成29年8月26日に第43回夏祭りが開催された。</p> <p>一方子供会は、1丁目子供会と2丁目から5丁目まで全てが統合されたわんぱく子供会の2組織になった。</p>	<p>平成30年度も、住民有志による第44回夏祭り実行委員会が立ち上げられて夏祭りが平成30年8月25日に開催された。</p> <p>当日午前8時より12時30分まで、1丁目三角公園より子供御興が本御興とともに巡航を始め、1丁目を巡航し、西公園で子ども御興が4、5丁目へ引き渡され、次いで3丁目を巡航した。</p> <p>午後5時からの音楽、ダンス、よさこいなどがフェスティバル形式で開催された。続いて、打ち上げ花火が行われた後7時30分より盆踊りを主とする夏祭りが開催された。</p> <p>伏尾台地区の子供はもちろん、細河地区の子供たちのみならず、石橋、池田、川西地区からも多く参加し、ここ数年で一番の参加者があった。多くの参加者が惜しむ中、9時30分に終了した。</p>	<p>育成者が子供会の活性化を真剣に議論できる状況となり、協議会の委員としても子供会の新旧の校区長が毎年加入していた。そして、さらに複数年度にわたり活動に参加してもらっている。</p> <p>夏祭り実行委員会が自治会に開催協力と参加要請を行い、さらに地域の団体、商店などに広告募集を行うなど、地域のコミュニティ作りにも貢献している。</p>	<p>活動が活性化し子供会では、新調の子供御興の巡行を望んでいるので、毎年夏祭りが開催されるようにしたい。</p> <p>住民有志による夏祭り実行委員会には、さらに多くの住民の参加が期待できる新しいフェスティバル形態の夏祭りを企画して成功を収めることができたらので、さらにステージを活用した企画をお願いしたい。</p> <p>また、伏小南校舎の跡地活用に関連し、校舎周辺の整備の計画があるので、これと連携して、恒久的なステージを整備できると良い。</p> <p>第44回夏祭りは、人出が多く、それと共にゴミが増したが、例年の校舎北側の倉庫を利用したゴミ分別が機能しなくなり、大量のゴミ処理に苦労したため、グラウンド内にゴミ分別収集所を設置したい。</p>	<p>事業提案に基づき、適正に予算執行されている。</p>	<p>空港・観光課 自治振興員</p>

地域コミュニティ推進協議会事業評価表（平成30年度執行）

伏尾台地区活性化事業	300	補助金	300	地域住民を対象としたミニコンサートなどのイベントを実施し地域の活性化を図る。	<p>毎年2～3回の音楽コンサート、1～3回の落語会を開催し、既に22回開催してきた。季節を感じられるイベントとして地域に「ふしおだい山びこフェスタ」と認知され定着している。</p> <p>平成28年度は、野外コンサート1回、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会1回を開催した。</p> <p>平成29年度は、室内コンサート3回、小児科専門医との座談会1回、落語の会2回を開催した。</p>	<p>5月12日、コミュニティプラザ内で、アプサントクインテットによる音楽ライブを、伏尾台センター夢の広場公園での地区福祉委員会のフリーマーケットと共催の形で行った。</p> <p>7月7日、コミュニティプラザで、林家菊丸の山びこ寄席を予定したが、台風の影響で伏尾台内で避難者がおられることで中止した。</p> <p>9月15日、コミュニティプラザ内で、ピート山中の歌とトークのコンサートを開いた。</p> <p>11月10日、コミプラにて、林家染座、月亭天後の落語の会を開いた。</p> <p>2月2日、コミプラにて、林家染座+お雛子付きで落語の会をコミプラにて開催した。</p> <p>山びこフェスタの開催が27回になった。</p>	<p>例年通り、参加者は異口同音に伏尾台で生で音楽や落語が楽しめて良かったと言い、継続要望が多かったが、参加者にボランティアスタッフを呼びかけるが応募が全くない。</p> <p>また広報の仕方により参加の人数が異なること、天候に左右されやすいことなど集客に課題が多い。</p> <p>地域住民の憩い並びに交流を深めることができ、定着して楽しみにされている方が増加していること、音楽のジャンルで参加される方の顔ぶれが変わることが確認できた。</p> <p>令和元年度こそ、コミプラには寄付でいただいたアップライトピアノをメインにした音楽会を開催したい。</p>	<p>6月12日、「アプサントクインテット」2.0時間 100人</p> <p>9月15日 「歌とトーク」1.5時間 80人</p> <p>11月10日 「落語会」1.5時間 80人</p> <p>2月2日 「落語の会」1.5時間 90人</p> <p>広報紙のとおり、2回のコンサート、2回の落語会ともに盛況であり、地域住民の憩い並びに交流を深めることができた。</p>	<p>今年度は、事業実施に至らなかったがそれぞれ自治会単位では引き続き美化活動を実施されていた。</p>	<p>空港・観光課 自治振興費</p>
伏尾台地区住民清掃事業	50	補助金	50	住民相互の交流と地域の環境を考える機会として、地域の団体、学校、各種グループとともに伏尾台地区の清掃とワークショップを行い、地域コミュニティの推進を図る。	<p>伏尾台地区の各丁目ごとの5つの自治会は、それぞれ各丁目単位で住民清掃が定期的に行われていた。伏尾台の住民相互の交流と地域の環境を考える機会として、1つのテーマで住民が清掃に取り組みることがなかった。</p> <p>平成29年度は、伏尾台1丁目の銀杏並木の管理をテーマにし、伏尾台住民とほそごう学園の1、2年生の生徒とともに清掃を進め、いくつものイベントが計画されましたが、三者の都合を合わせることもなからず、開催の時期を失することとなり、イベントの計画を断念することとなり、本事業を実施することができなかった。</p>	<p>令和元年度は、旧伏尾台小学校の南校舎を用いて、多世代交流施設を開設する予定であり、閉校した府立校の跡地周辺の環境保全と共に、地域内の主要な6つの公園の整備などを念頭に、伏尾台地区全体の環境整備、清掃問題に取り組みたい。</p>	<p>なし</p>	<p>今年度は、事業実施に至らなかったがそれぞれ自治会単位では引き続き美化活動を実施されていた。</p>	<p>環境政策課 自治振興費</p>	
ほそごう地域花いっぱい運動支援事業	25	補助金	25	地域と学校が一緒に実施する「みんなで育てる花いっぱいプロジェクト」活動の支援を細河地区とともに行う。	<p>地区福祉委員会並びにほそごう地域コミュニティ推進協議会（細河地区）と共同して、ほそごう学園が行う地域花いっぱい運動、7年生と3年生がパンジーなどを育てて、大きくなった苗を地域の学校、保育所、老人ホームなどに配り、やさしい環境作りを行う）を支援していた。</p>	<p>今後は、義務教育学校となったほそごう学園とともに、さらに地域全体の活動としての意義が高まるため、継続して活動していきたい。大原町の補助金が打ち切られたため不足分を補う必要がある。</p>	<p>ほそごう学園地域の地区福祉委員会並びにコミュニティ推進協議会が全て共同して、3年生と7年生が行う学校、保育所、老人ホームなどへの花の贈呈活動を支援することができ、地域全体の活動として定着してきた。</p>	<p>学校と地域住民が協働することで、地域緑化の推進と学校の環境学習にもなっている。</p>	<p>公園みどり課 自治振興費</p>	
高齢者の居場所づくり事業	180	補助金	180	高齢者同士が一緒に夕食を楽しむ環境を提供して、高齢者らの交流を促進し、町全体のコミュニケーション能力の向上を図る。	<p>平成27年10月に伏尾台コミュニティプラザを開館して以来、サロンの利用者は、子育て支援ルームを中心とした母子の利用、ほそごう学園生の利用が多く、写真展などのイベントや山びこフェスタの開催時には高齢者が多く来うが、高齢者の居場所としては、利用者が少なかった。</p>	<p>開催に際して目的を理解しない地域団体からのクレームがあり、開催時期を失うことになり、また広報方法が十分でなく、応募者数が限られる事態が重なり、開催できたのは、9月2回、1月2回、3月4回の合計9回のみであった。</p> <p>今後は、夕食会の開催時刻時間を季節に合わせて変えること、夕食内容に変化をつけること、音楽、語り、展覧会などのイベントとともに開催すること、また、まちづくり、居場所づくりのテーマを開催日毎に選択して明確にすることで、夕食会へ出かける動機付けが明確になれば、広報の方法が回覧や掲示に備えることがなくなり、多くの人へ広報できると考えている。</p>	<p>高齢者同士が一緒に夕食を楽しむ環境を提供して、高齢者らの交流を促進するとともに、まちのことや身の回りのことについて話し合い、高齢者の意見を伺うことで、まちづくり、居場所づくりの多くの意見を収集することができ、町全体のコミュニケーション能力を向上させることができた。</p>	<p>初年度としては、一定の参加者が確保されたものと認識。今後の周知方法の改善や工夫による参加者の増加に期待している。</p>	<p>高齢・福祉総務課 自治振興費</p>	
伏尾台創生会議2020宣言広報事業	25	補助金	25	伏尾台創生会議2020で採択された伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を広報するため、新吉田橋のライトアップとサイン設備を維持管理する。	<p>市の公募により平成28年1月に組織された伏尾台創生会議2020は、平成28年3月26日に伏尾台地区再生のための提言を市に提出するとともに、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言を行なった。</p> <p>この宣言を聞いた伏尾台住民が、伏尾台の入り口である「新吉田橋」のライトアップと上記の宣言を広報するサイン設備を寄付していただくことになり、平成28年11月末に設備が完成した。</p> <p>市への寄付設備の贈呈が行われたが、11月からの電気代などの維持管理は協議会が行うことになった。</p>	<p>協議会としては、電気代の支払いのみの管理しかできない。住民にとっては、横断幕の点検ができるが、その清掃や修繕などは不可能である。また、ライトアップ装置の点検維持も同様に行うことができない。</p>	<p>「新吉田橋」のライトアップ装置は、コンピュータ制御したLEDライト整備で、予め設定された日没から夜明けの夜間のみ点灯されるため、比較的安価な電気代で維持できた。</p> <p>また、住民の手で、伏尾台「子育てにやさしいまち」宣言が書かれた横断幕を点検することができた。</p>	<p>新吉田橋の欄干に設けられた横断幕は、国道423号線の北行き車線から容易に確認できるため、伏尾台地区がここにあること、子育てにやさしいまち宣言した地区であることを国境往來者に広報できている。</p> <p>また、夕方から夜間に帰宅する伏尾台住民は、ライトアップされた新吉田橋を見ることで、我が家に帰ってきたことを実感できると、好評である。</p>	<p>ライトアップにより、より良い景観の確保ができたと考えられる。</p>	<p>道路・河川課 自治振興費</p>
計	6,278			事業提案限度額 9,910千円 次年度繰越金額 3,632千円						
合計	85,401			事業提案限度額 119,907千円 次年度繰越金額 34,506千円						